

2009年度決算 経営戦略進捗状況説明会

2010年5月20日



住友金属鉱山株式会社

説明内容

I. 06中計振り返り

II. 10年度外部環境と金属市況

III. 09中計：新成長戦略の進捗状況

IV. 09年度決算業績ハイライト

I. 06中計振り返り



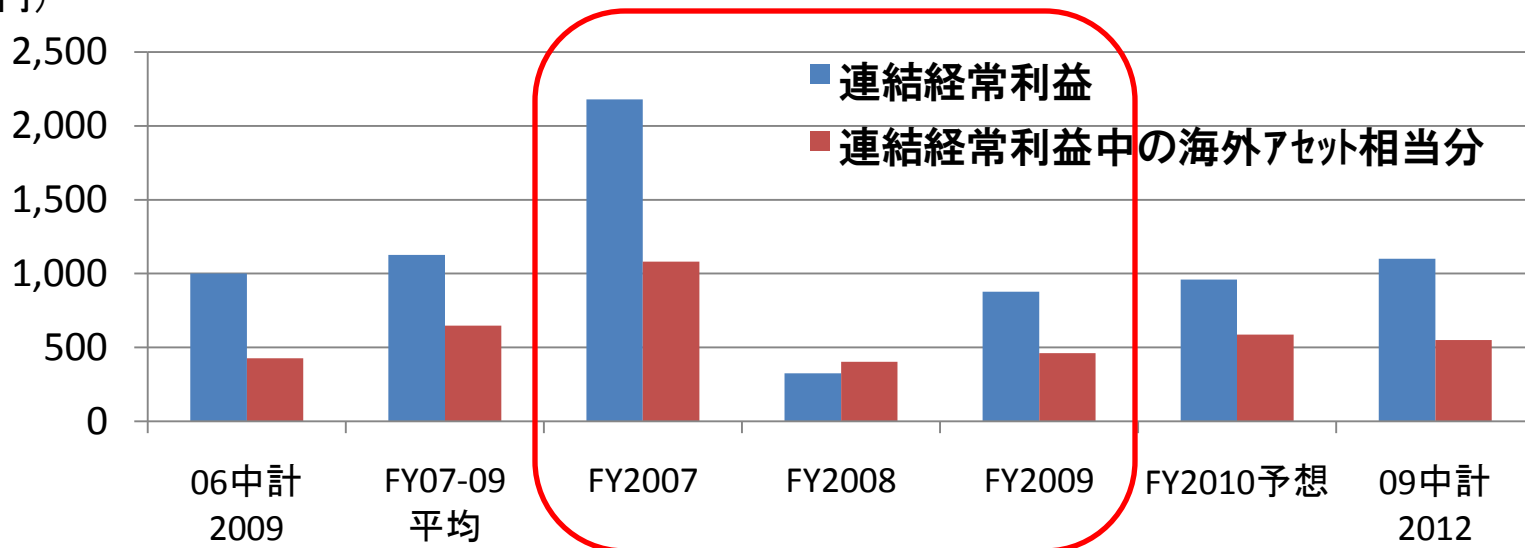
Coral Bay Nickel

SUMITOMO METAL MINING CO., LTD.

1) 連結業績の推移

06中計(09年度試算)に対し実績平均は上回る結果

(億円)



(単位:億円)	06中計 2009	FY07-09 平均	2007	2008	2009	2010 予想	09中計 2012
連結経常利益	1,000	1,128	2,179	326	878	960	1,100
連結経常利益中の 海外アセット相当分	426	649	1,082	402	461	587	550
Cu価格 (\$/T)	4,000	6,516	7,584	5,864	6,101	6,500	6,000
Ni価格 (\$/lb)	7.0	10.2	15.5	7.5	7.7	9.0	8.0
Au価格 (\$/Toz)	550	885	766	867	1,023	1,050	1,000
為替	110.0	102.7	114.3	100.5	92.86	90.0	90.0

2) 06中計の主な増益・減益要因

リーマン
世界経済の
悪化による

【増益要因】海外アセットの貢献

- ①CBNC増産(Ni)
- ②Pogo金鉱山増産・権益UP
- ③Cerro Verde増産
- ④コスト削減対策

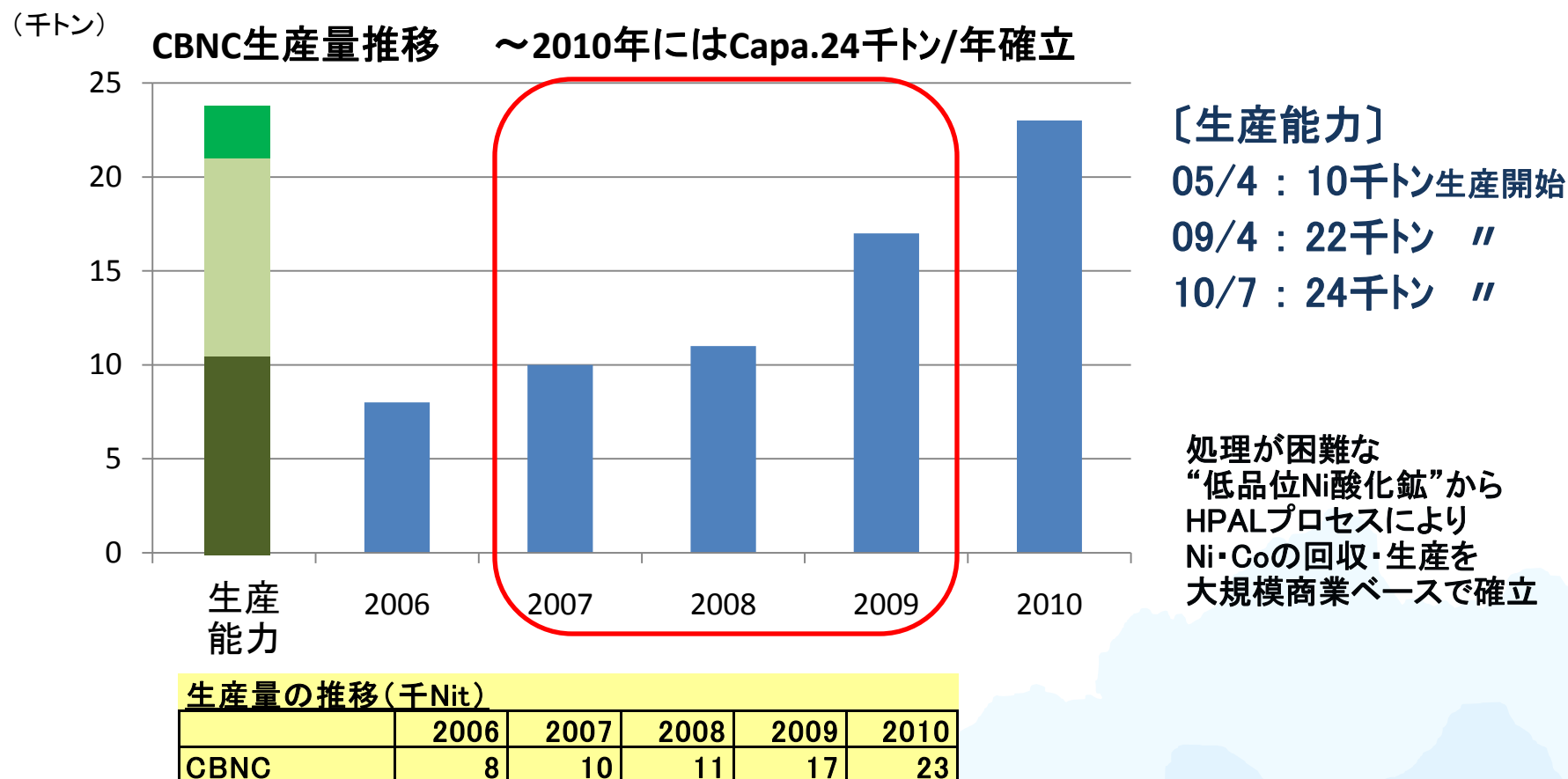
06中計の主な増益・減益要因

【減益要因】原料条件悪化・需要低迷

- ①銅製錬マージン減少
- ②電子・機能的材料収益減少
- ③在庫評価損(08年度)大

3)06中計主要戦略:増益要因①Ni <1> CBNC

CBNC(HPAL)の増強



3)06中計主要戦略:増益要因①Ni <2>電気Ni(新居浜工場)

・09年度 生産能力36千トン→41千トン/年 完成

(CBNC II の増産に合わせて)

総投資額 57億円

(2012年の生産能力65千トン体制
増強も視野に入れた設備投資)

・10年度 65千トン/年へ着手

(13年度Taganitoの生産開始に
合せて完成予定)

10年度投資額 9億円(総額110億円)

MCLE法:

Matte Chlorine Leach Electro-winning
(マツ塩素浸出電解採取法)

(ニッケル工場 大河内記念生産賞 受賞)

・1980年 溶媒抽出法を用いたCoの分離精製

・1996年 MCLCプロセス

・2009年 低品位ニッケル酸化鉱からの

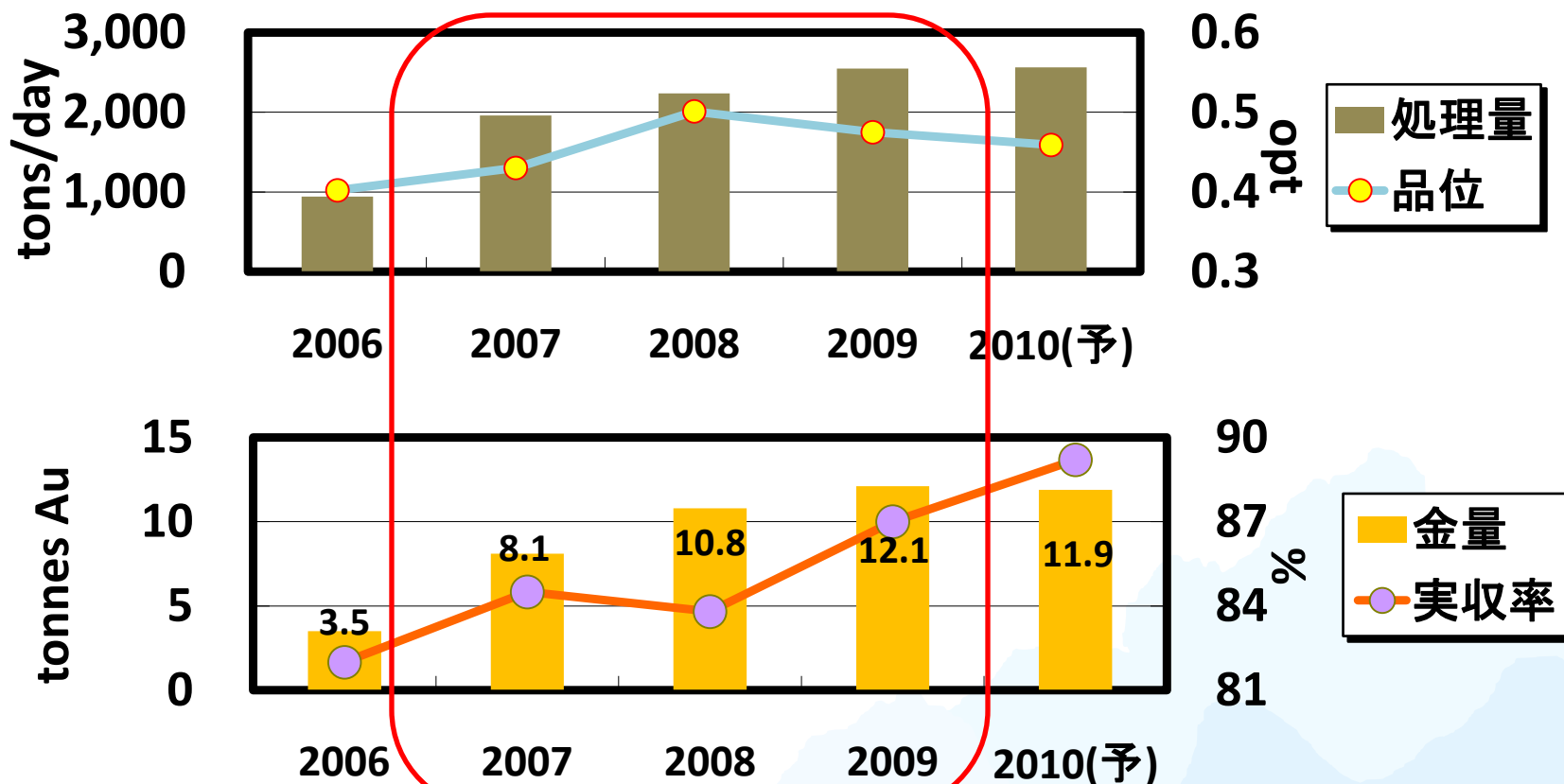
Ni・Coの回収技術開発(HPAL)



3) 06中計主要戦略: 増益要因②Pogo金鉱山

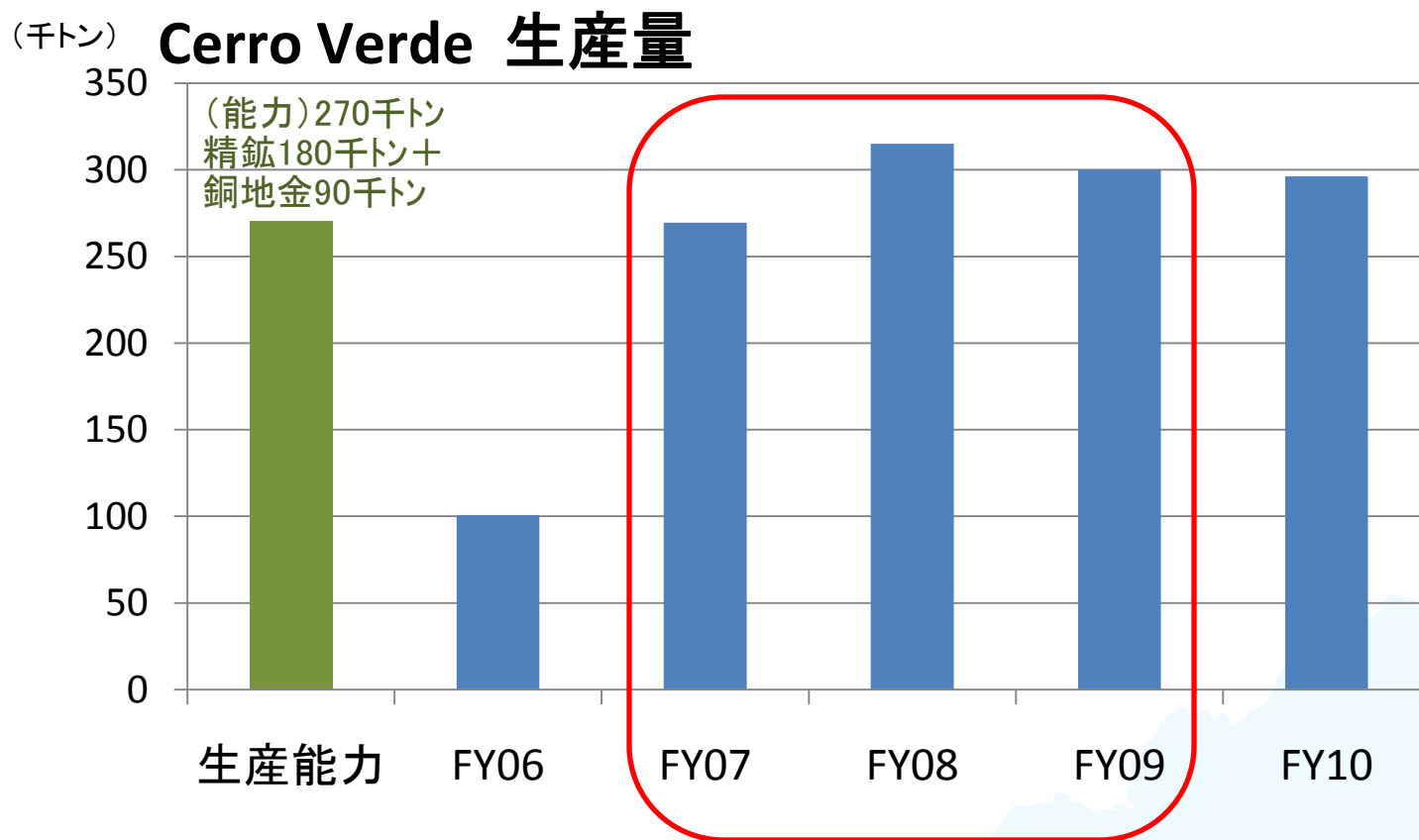
生産能力12トン/年を達成
～SMM技術・ノウハウの活用～

(09/7: Teck社より40%権益獲得し日本側の権益100%)



3)06中計主要戦略:増益要因③Cerro Verde増産

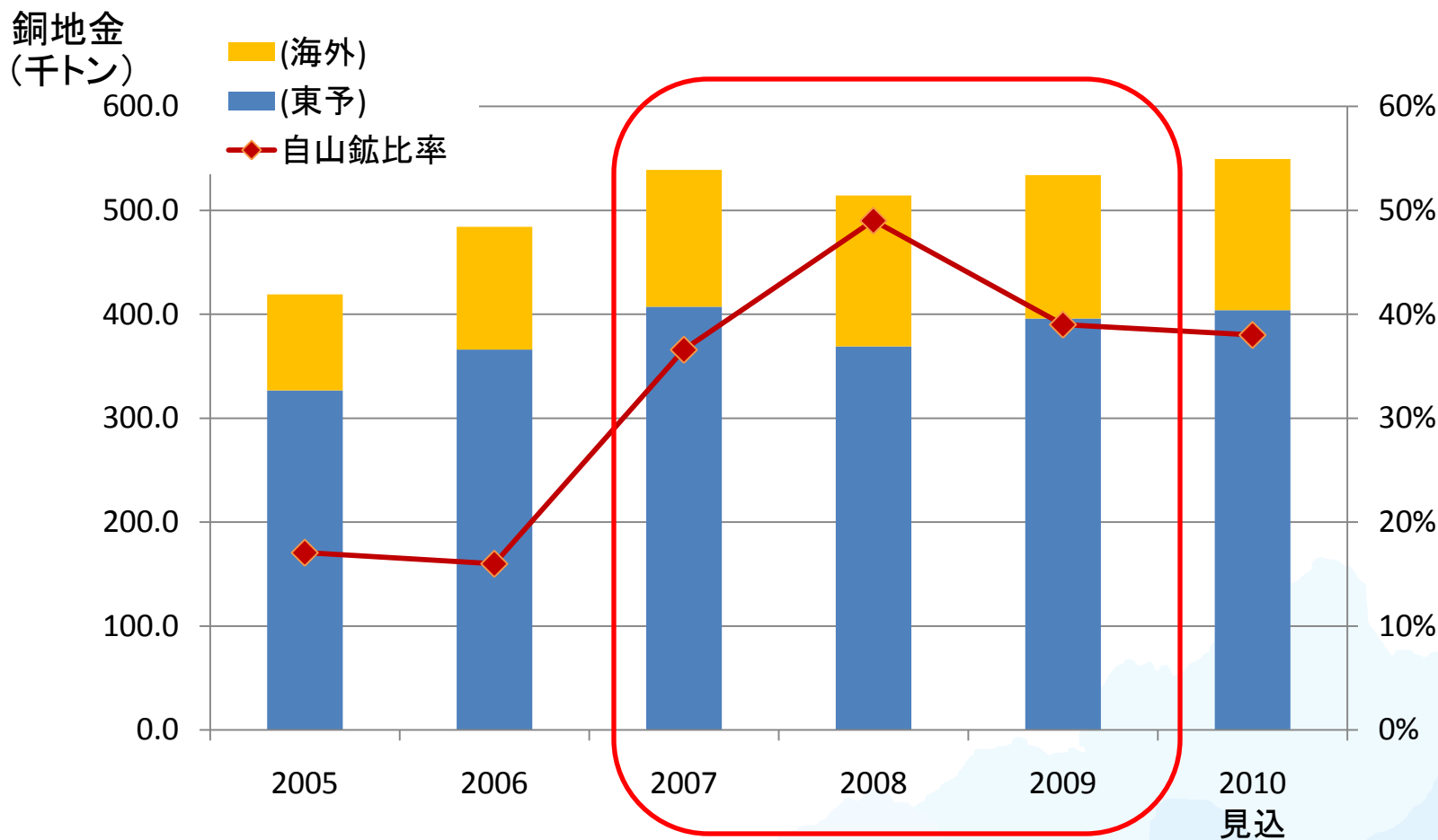
生産能力を上回る実績(品位UP・順調な操業)



Double ExpansionのF/S作成検討へ(2010年度)

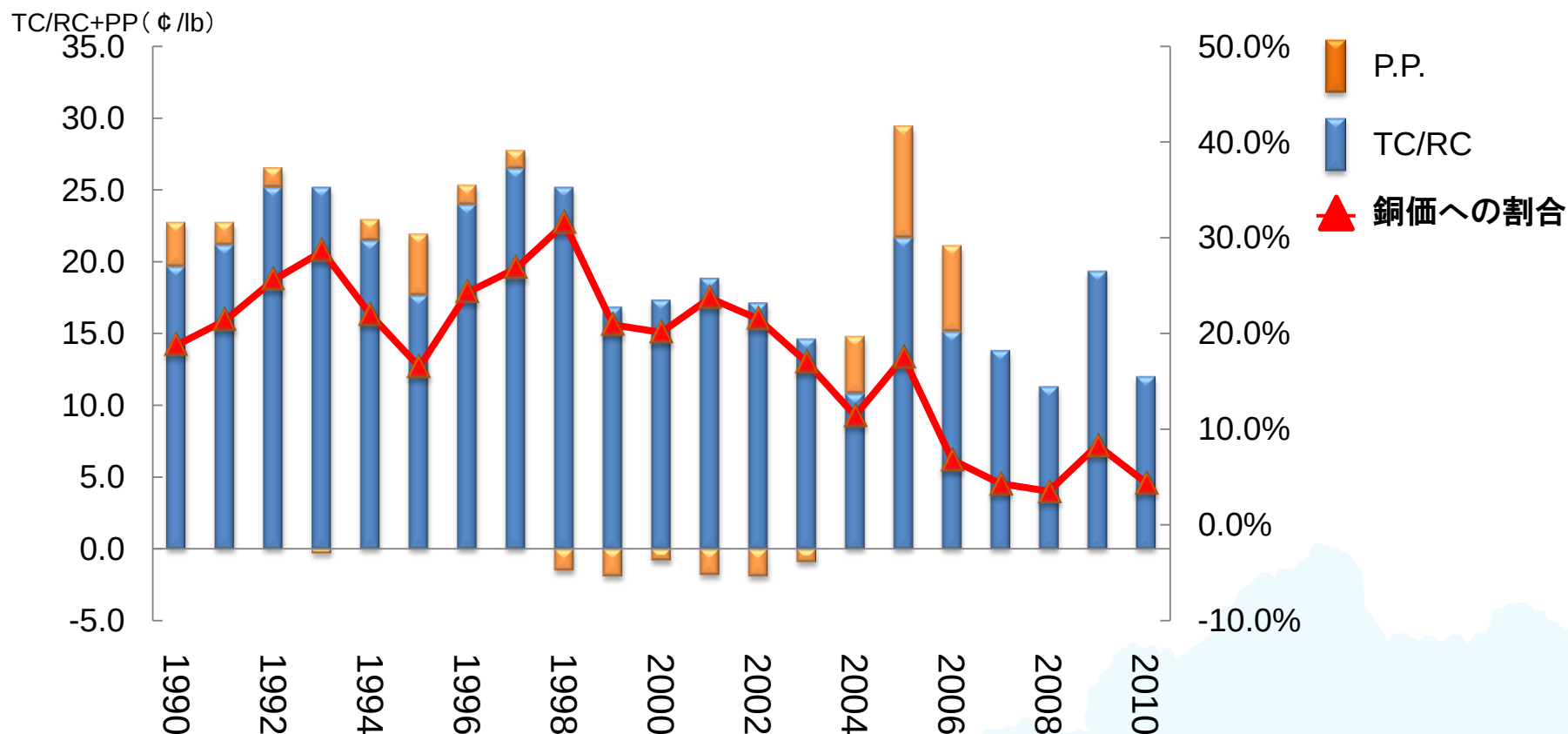
3)06中計主要戦略:増益要因④東予45万トン/年・自山鉱比率40%

コストミニマム操業を実施、40万トン/年生産維持



3) 06中計主要戦略～減益要因①銅製錬マージン減少

日本の製錬会社の買鉱条件と銅価に占める割合



2010年: TC/RC=\$46.5/ \$ 4.65=Combined \$ 12/lb

2009年: TC/RC=\$75 / \$ 7.5 =Combined \$ 19/lb

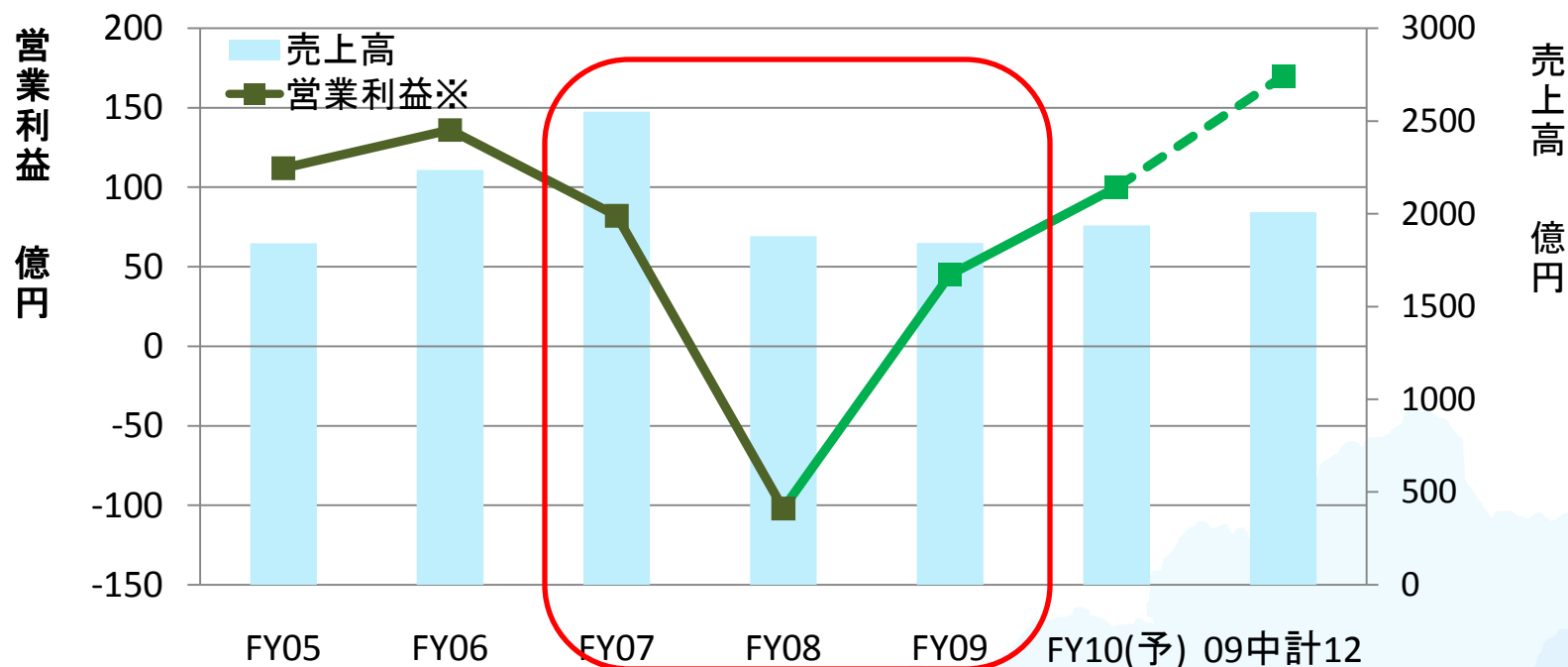
2010年: 銅価6000\$/tとして

(Data: JOGMEC)

3)06中計主要戦略:減益要因②電子・機能性

計画:「世界トップクラスのシェア・営業利益200億円」

実績: 2008年度シェアNo.1でも赤字に
環境変化を受け“抜本的な対策”を進める
各事業の自立化、環境・エネルギー事業に注力



※FY08まで:
本社費等配賦した営業利益

FY09以降の表示
約20億円/年増益

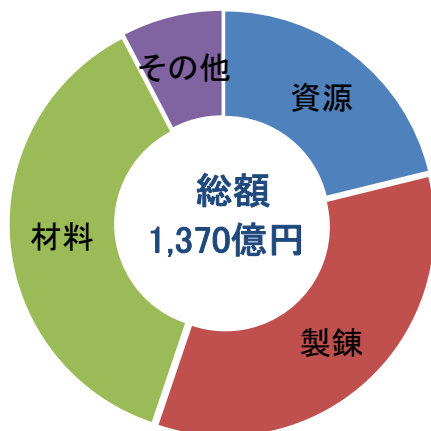
※FY09以降:
本社費等配賦前営業利益

4) 資本的支出

引き続き成長戦略投資を実行

海外権益獲得の投資額440億円を含め総額1,761億円

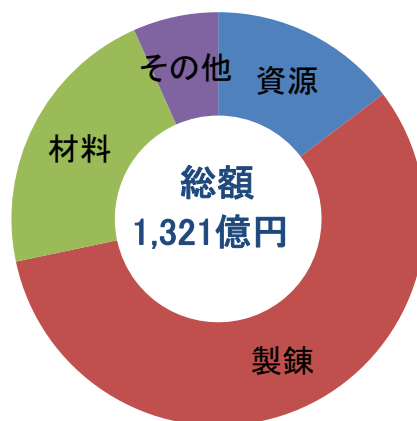
03中計



【03中計:海外権益】	
Cerro Verde	234億円
Goro	173
Ojos	21
計	428

総計 1,798

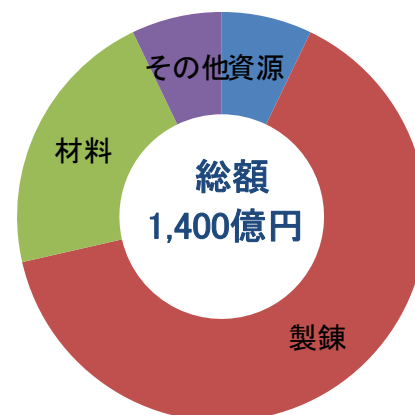
06中計実績



【06中計:海外権益】	
Pogo	203億円
Goro	179
NAC	58
計	440

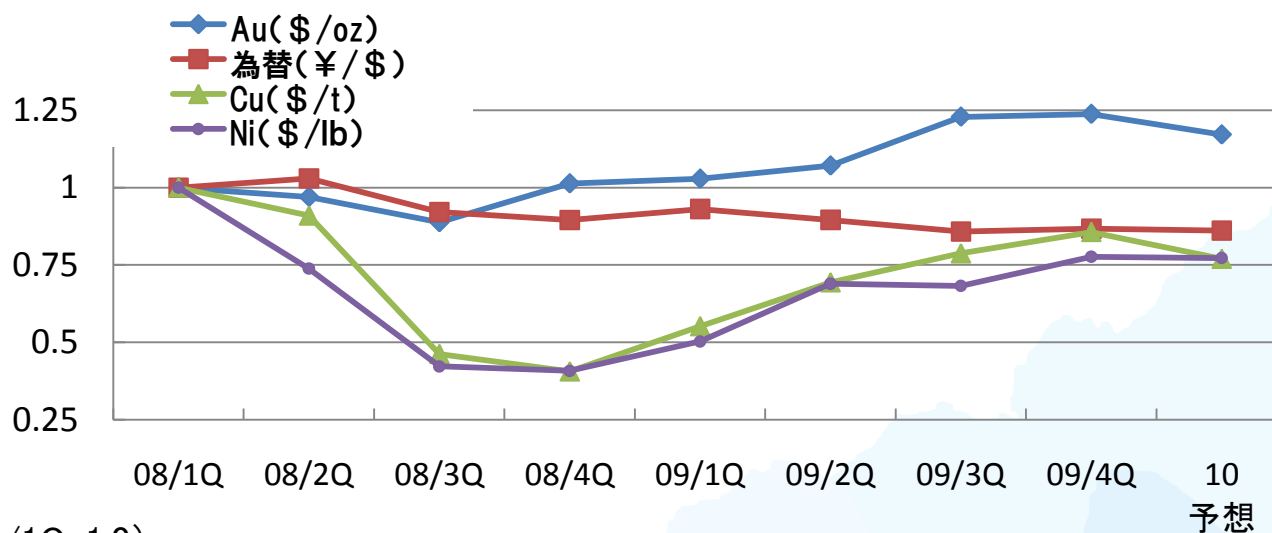
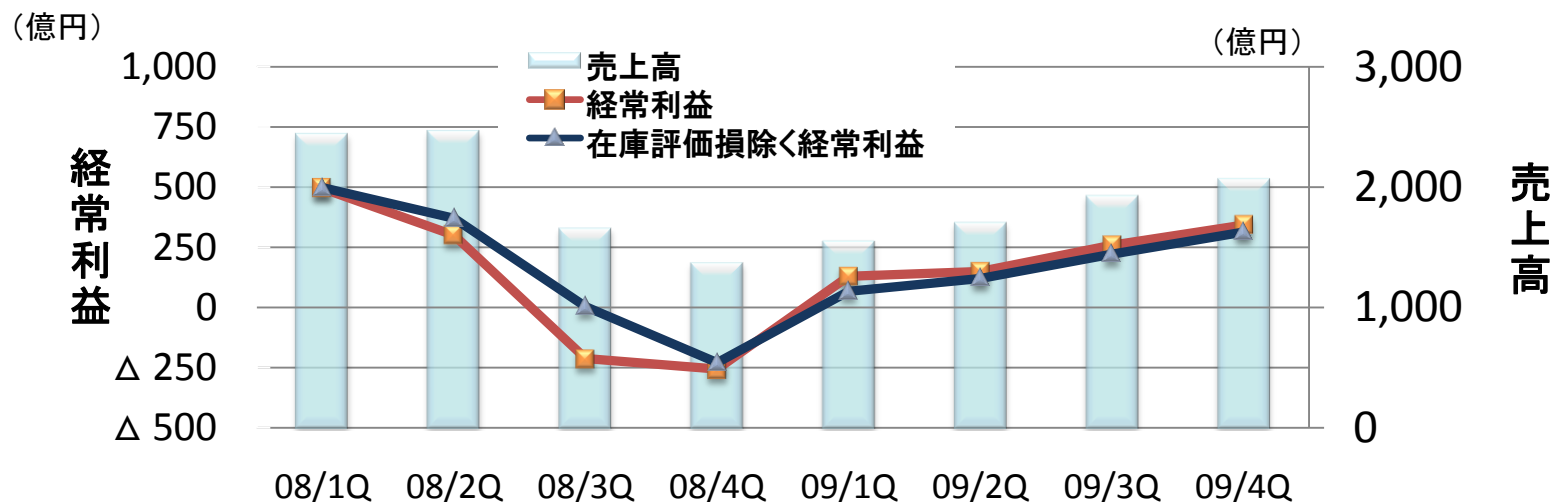
総計 1,761

06中計計画



海外権益取得の
投資額は計画金額
の外数

5) 2009年度の収益確保～①08/4Qを底に着実に回復



5) 2009年度の収益確保～②緊急経営総合対策の着実な実施

「収益最大化・コストミニマムの事業運営」に徹する

- (1) 仕上コスト引下・オペレーション効率UP
- (2) 投資・探鉱費は戦略PJに絞込む
- (3) 不採算事業・製品の選択と集中促進

総額150億円の費用削減目標に対し180億円を達成

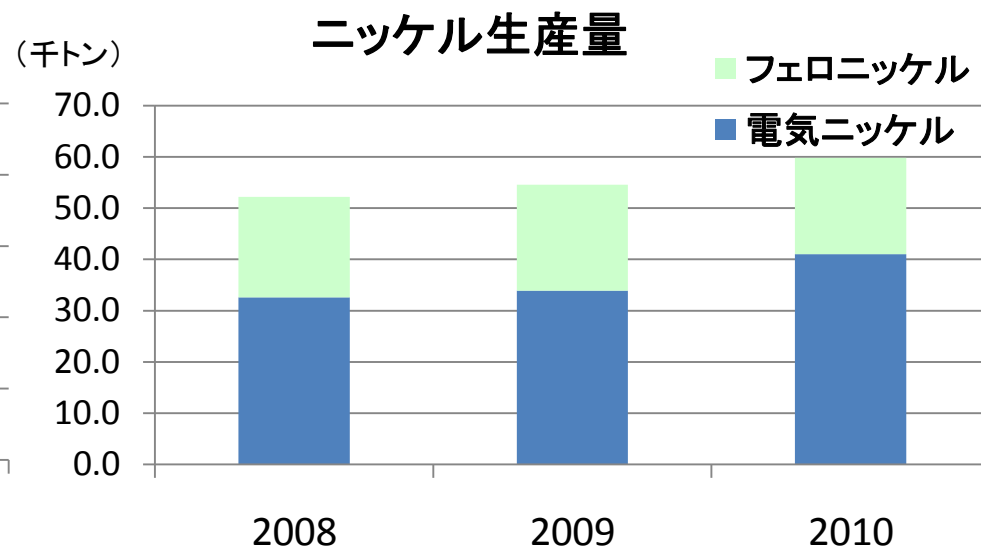
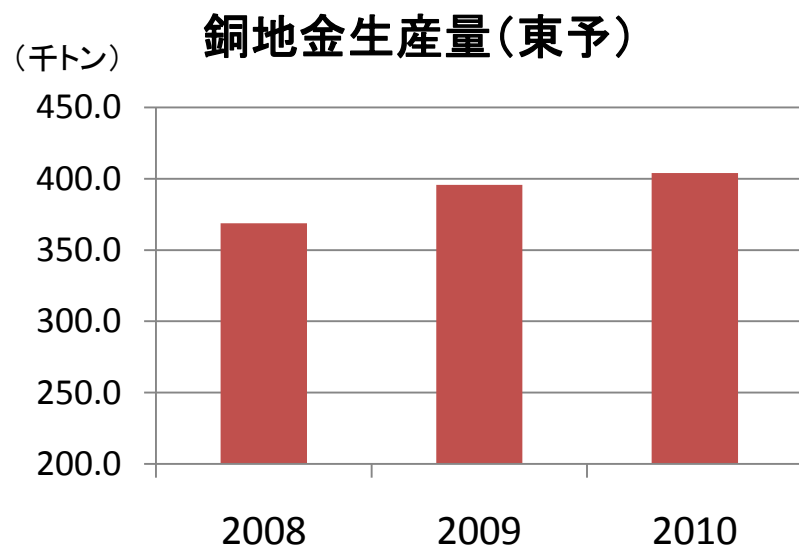
(年間実績)資源・金属 : 100億円 / 電子・機能性: 80億円

【180億円の内訳】 エネルギーコスト30億円、修繕料20億円、
管理可能経費40億円、労務費等60億円、その他30億円

電子機能性材料事業の事業再編進む

2010年度 総額150億円(2008年度比)の費用削減は継続

5) 2009年度の収益確保～③金属生産動向



	2008	2009	2010
銅地金	368.7	395.8	404.0

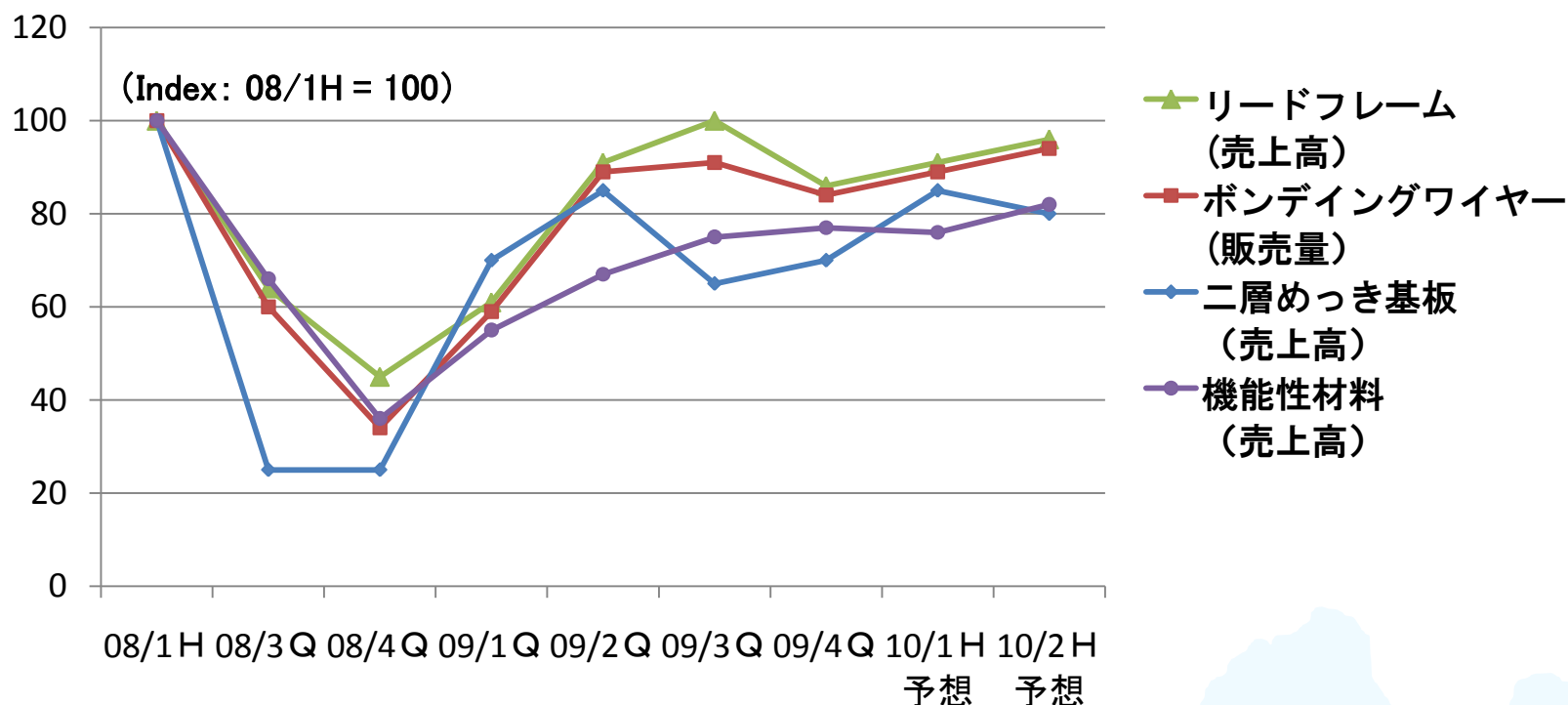
	2008	2009	2010
電気ニッケル	32.6	33.9	41.0
フェロニッケル	19.6	20.7	18.8

コストミニマムな
操業を継続中

Ni10万トン/年体制へ
着実な増産を実施

5) 2009年度の収益確保～④電子・機能性材料販売動向

事業基盤の強化を実施、市況も回復



	08/1H	08/3Q	08/4Q	09/1Q	09/2Q	09/3Q	09/4Q	10/1H 予想	10/2H 予想
リードフレーム (売上高)	100	65	45	60	90	100	85	90	95
ボンディングワイヤー (販売量)	100	60	35	60	90	90	85	90	95
二層めっき基板 (売上高)	100	25	25	70	85	65	70	85	80
機能性材料 (売上高)	100	65	35	55	67	75	77	76	82

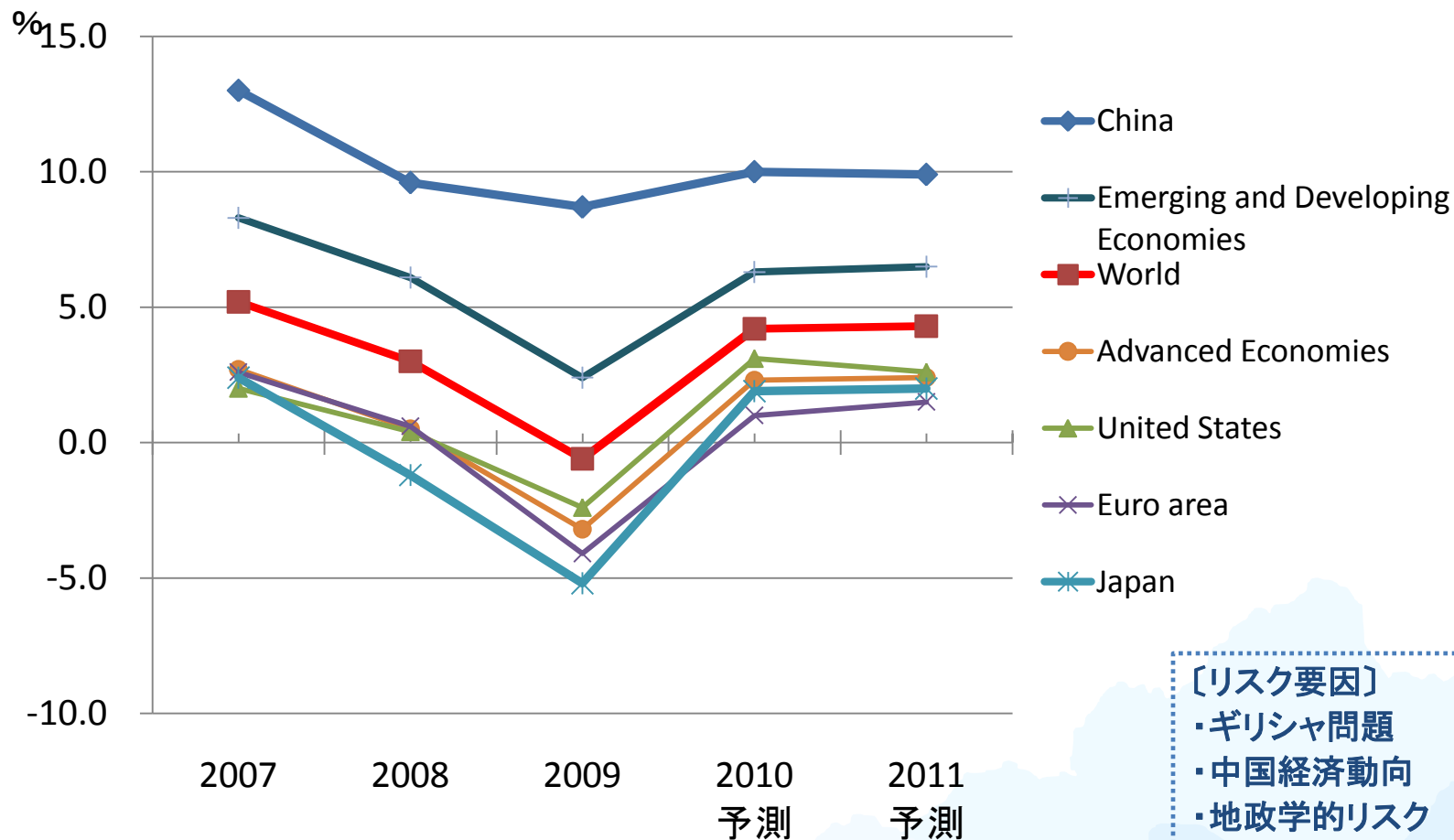
II. 10年度外部環境と金属市況



Pogo Gold Mine

1) 世界のGDP見通し

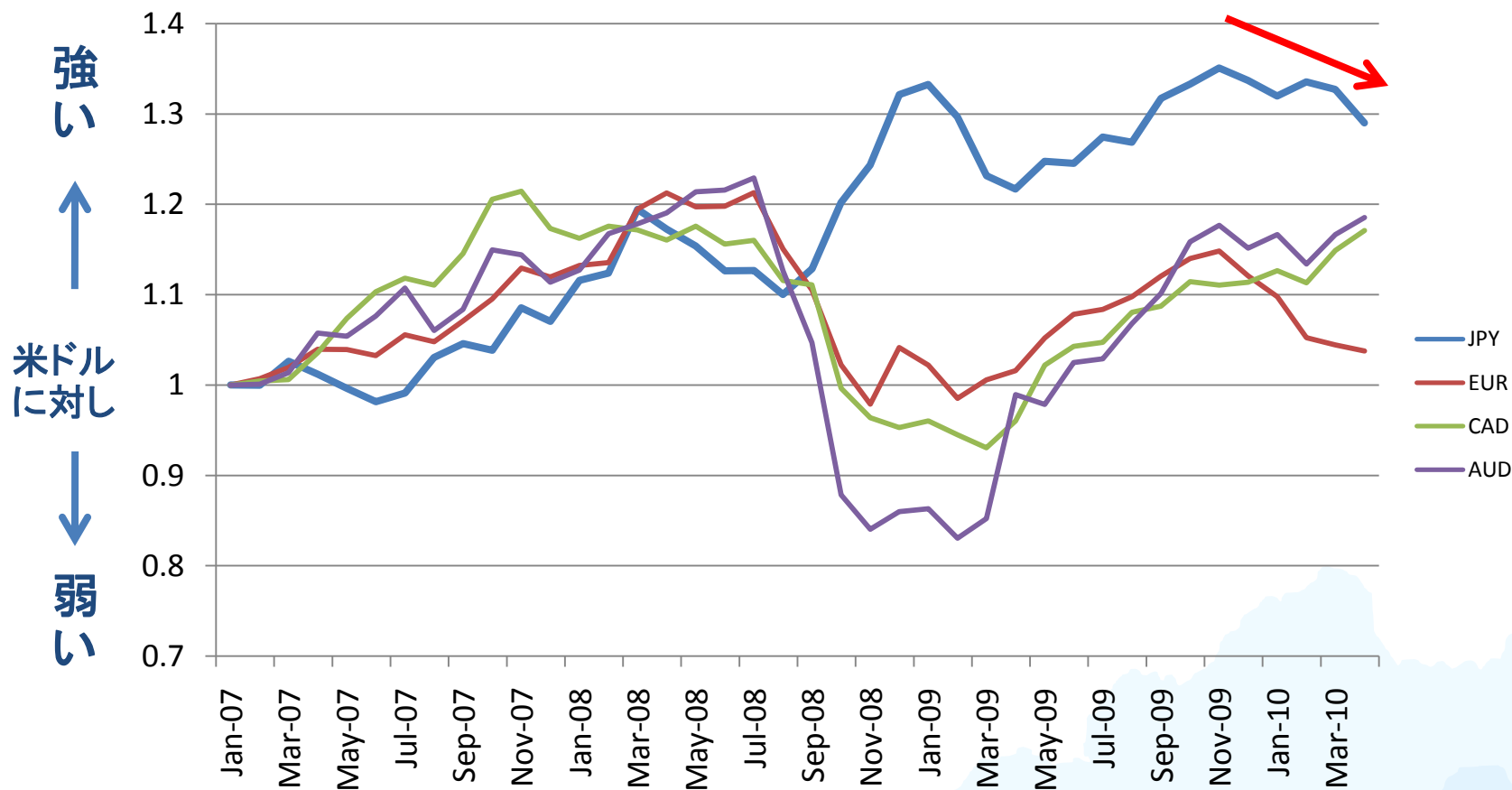
実態経済は回復傾向も、リスク要因の認識は重要



(出展:IMF2010/4月版)

2) 為替動向(資源国含む)

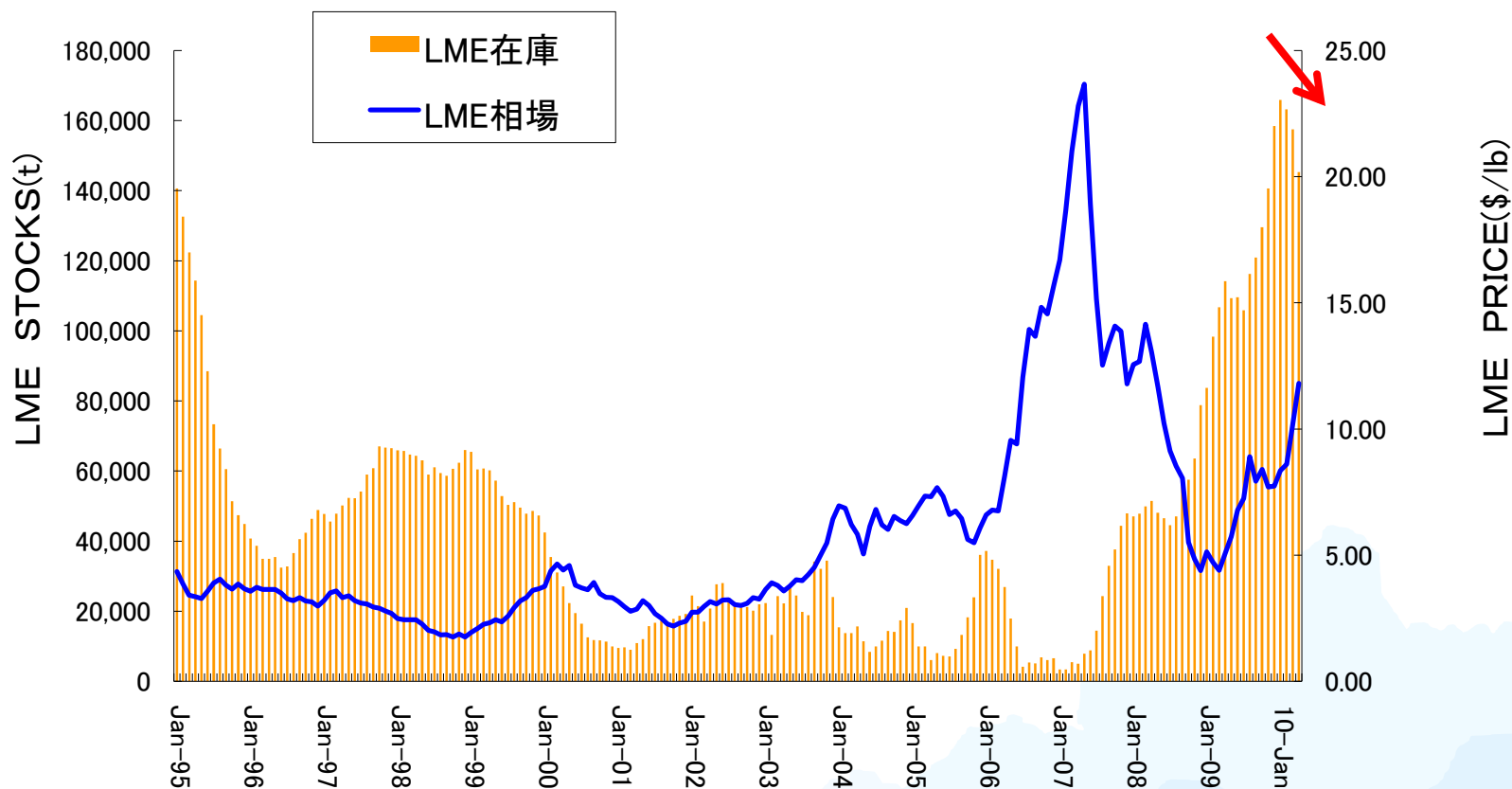
円安傾向も変動は激しい



Index Jan-07 = 1.0

3) Ni~①LMEの価格と在庫

Nickel LME Prices & Stocks



3) Ni~②需給バランス

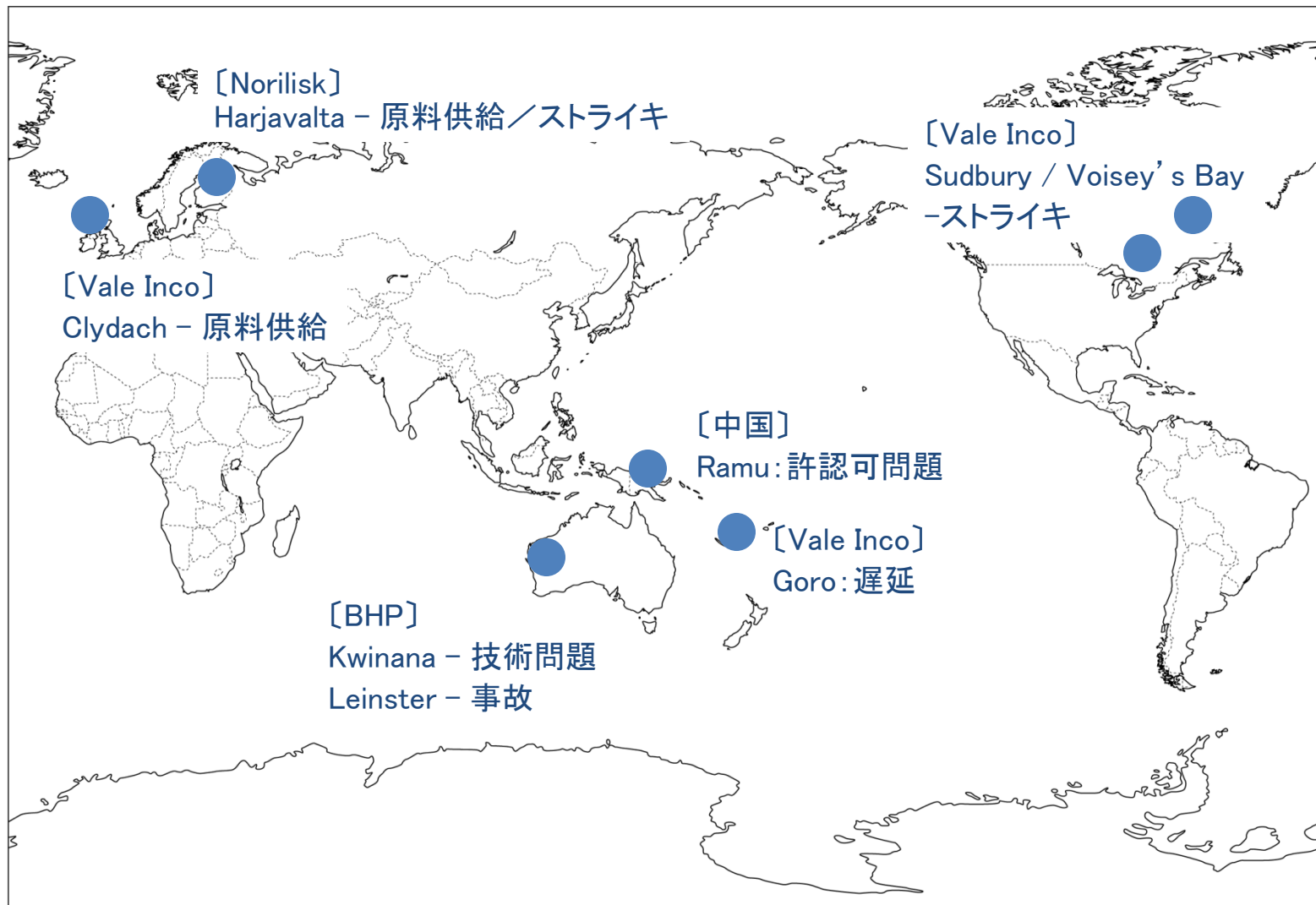
(Kt)	SMM			INSG			Macquarie
	2008	2009	2010	2008	2009	2010	2010
生産	1,363	1,279	1,374	1,382	1,332	1,395	1,414
消費	1,289	1,252	1,410	1,287	1,212	1,386	1,473
バランス	74	27	△ 36	95	120	9	△ 59
予測時期	2010.3			2010.4			2010.4
FY (\$/lb)	7.48	7.72	9.00	—	—	—	9.5
Ni 銑鉄(内数)	71	95	120	—	—	—	
Stainless steel	26,317	25,125	28,492	—	—	—	30,953

ニッケル

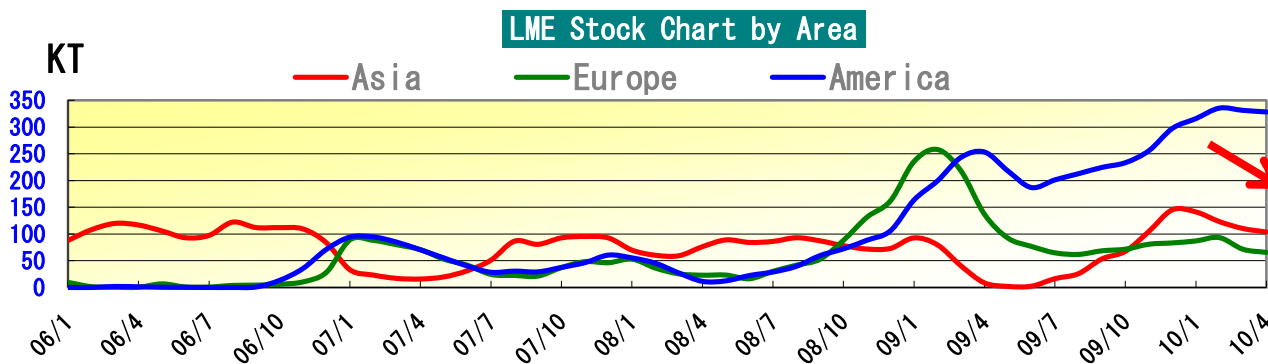
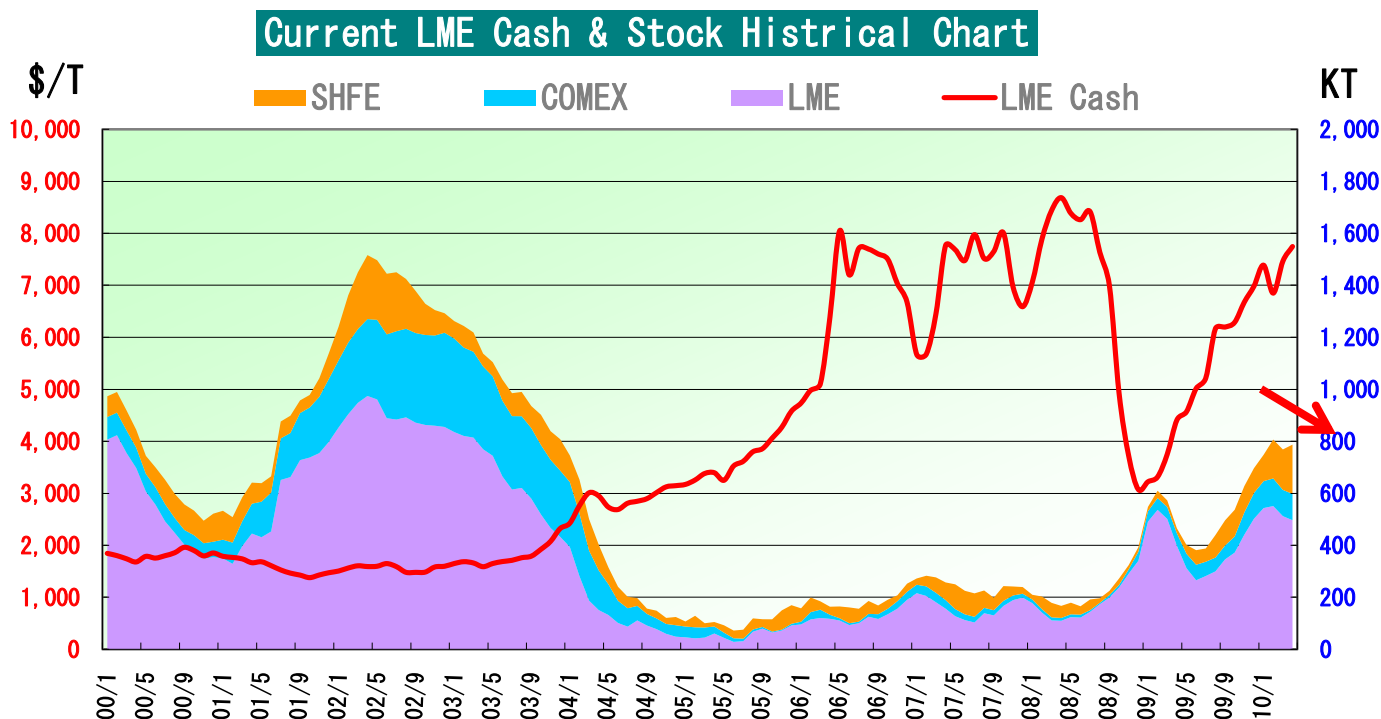


特殊鋼、ステンレス、電子材料など

3) Ni~③Disruptionの見通しは？



4) Cu~①LME価格・ターミナル在庫



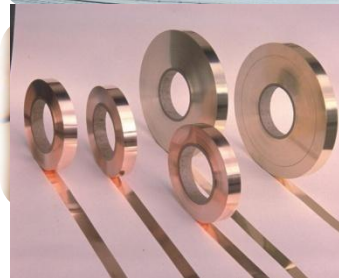
4) Cu～②需給バランス

	ICSG				Macquarie
(kt)	2008	2009	2010	2011	2010
生産	18,232	18,382	18,501	19,127	18,633
消費	18,006	18,204	18,034	19,018	18,720
バランス	226	178	467	109	-87
FY(\$/t)	5,864	6,101	—	—	—
CY(\$/t)	6,956	5,150		—	7,500
予測時期	2010.4				2010.3

銅地金



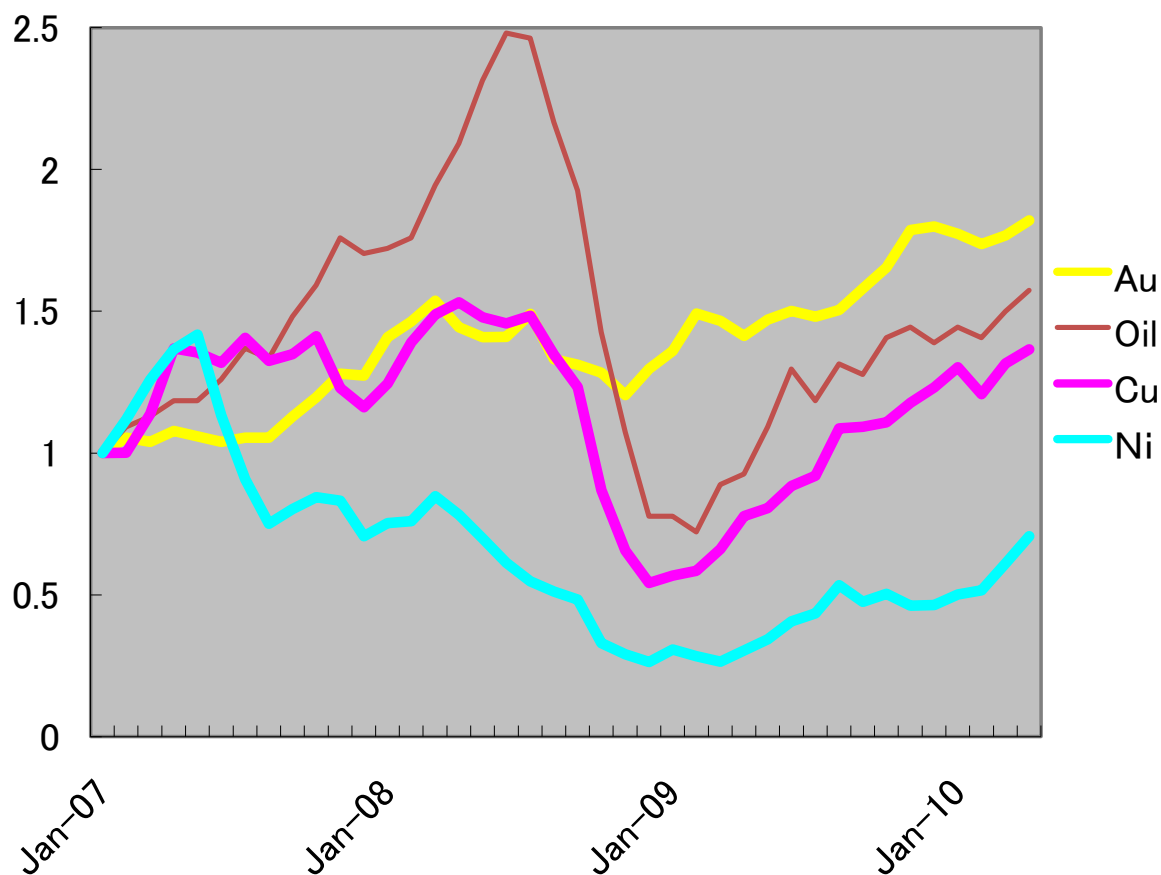
電線、伸銅品など



5) Au～金属価格・原油価格

基軸通貨としてのAu価格は堅調に

Index
07-Apr = 1.0



公的機関金保有量
(2010年3月末時点)

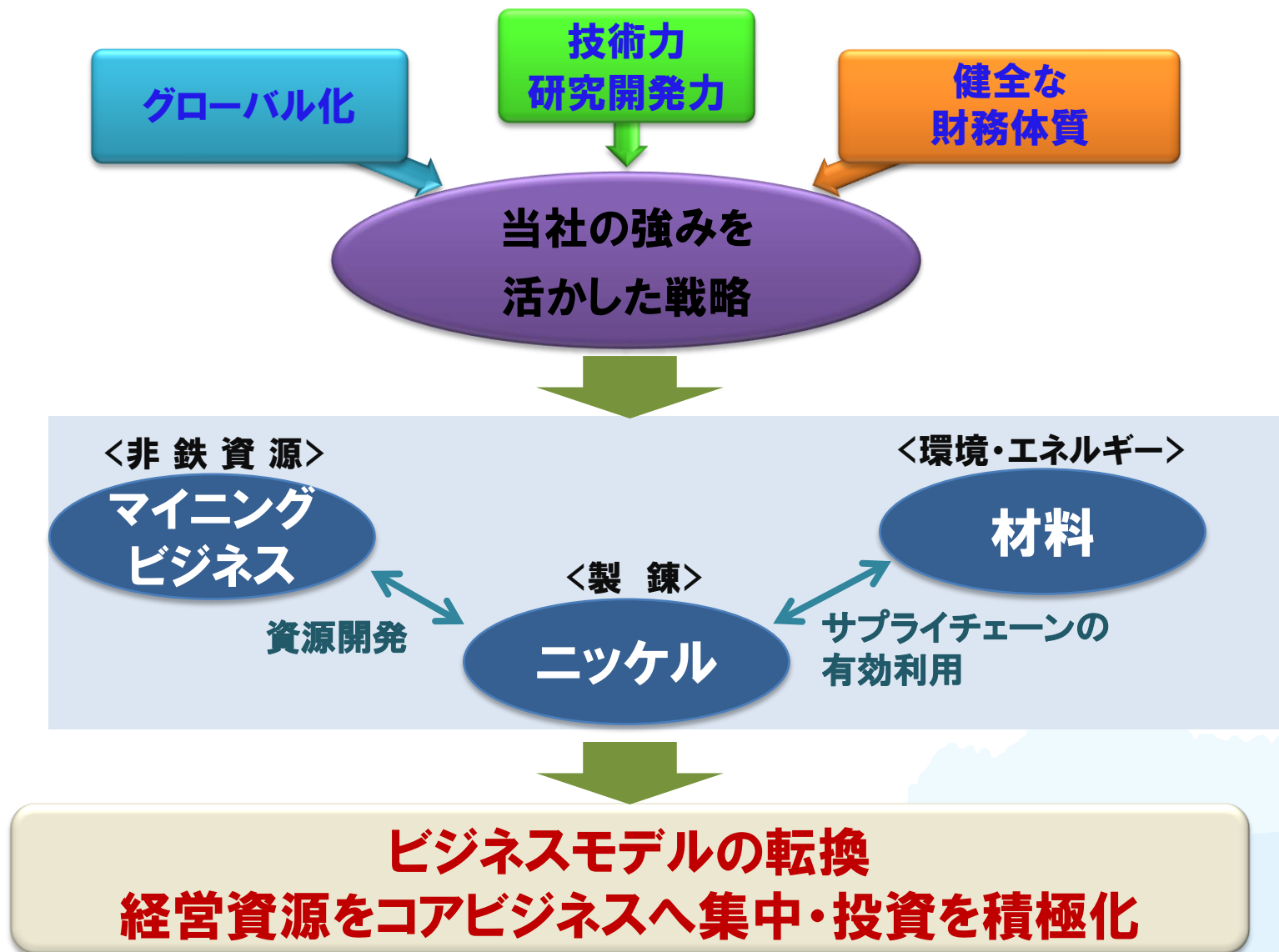
	国名	トン	外貨準備 の中の金 の割合
1	米国	8,133	70.4%
2	ドイツ	3,047	66.1%
3	IMF	3,005	—
4	イタリア	2,452	64.9%
5	フランス	2,435	65.7%
6	中国	1,054	1.6%
7	スイス	1,040	27.1%
8	日本	765	2.5%
9	ロシア	641	5.1%
10	オランダ	613	53.4%
14	インド	558	6.9%

III. 09中計：新成長戦略の進捗状況

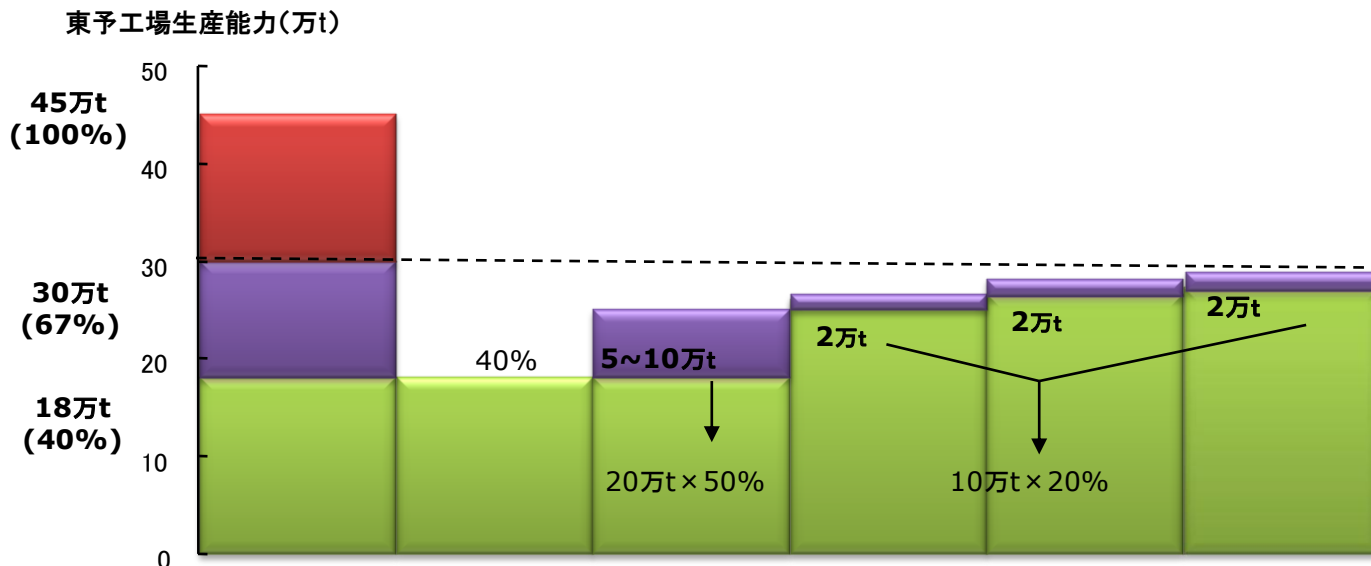


Cerro Verde Mine

1)09中計の 基本戦略



2) 資源事業～①海外鉱山の確保



【3つの方法】

1) 自社開発

探鉱エリア拡大 (2010年度より)

2) 開発案件への参入

資源獲得競争激化

3) 既鉱山の増産

セロベルデ増産計画、2010年中F/S作成
モレンシーの増産

2) 資源～②海外鉱山の探鉱状況



2) 資源～③資源獲得競争の激化

中国の台頭、権益価格は上昇

プロジェクト	国	起業費 US\$M*	購入者	売却者	売買 年	権益 (%)	売買 US\$M	資源量 Cu kt**	¢/lb
Esperanza	Chile	2,300	丸紅	Anto- fagasta	2008	30	1,310	12,477	15.9
El Morro	Chile	2,520	Goldcorp	New Gold	2010	70	600	3,283	10.1
Tampakan	Philip- pines	5,200	中国企業	Indophil	2010	34.2	631	13,936	5.7
Mirador & Panantza	Ecu-a-dor	2,000	中国企業	Corriente	2010	100	631	11,569	2.5
Caserones	Chile	2,000	三井物産	PPC	2010	25	135	4,482	5.5
Sierra Gorda	Chile	2,200	中国企業	Quadra	2010	50	450	7,680	5.0

※ ¢/lbの算出: 権益売買金額／権益資源量 但し一部SMM推定含む

(SMMの取り組み)

- ・積極的な情報収集・対象エリア拡大
- ・技術優位性を活かせる初期ステージ案件を対象に

3) Taganitoプロジェクトの推進

Ni10万トン/年体制に向けて
Taganito PJを順調に推進中
10年度投資額450億円

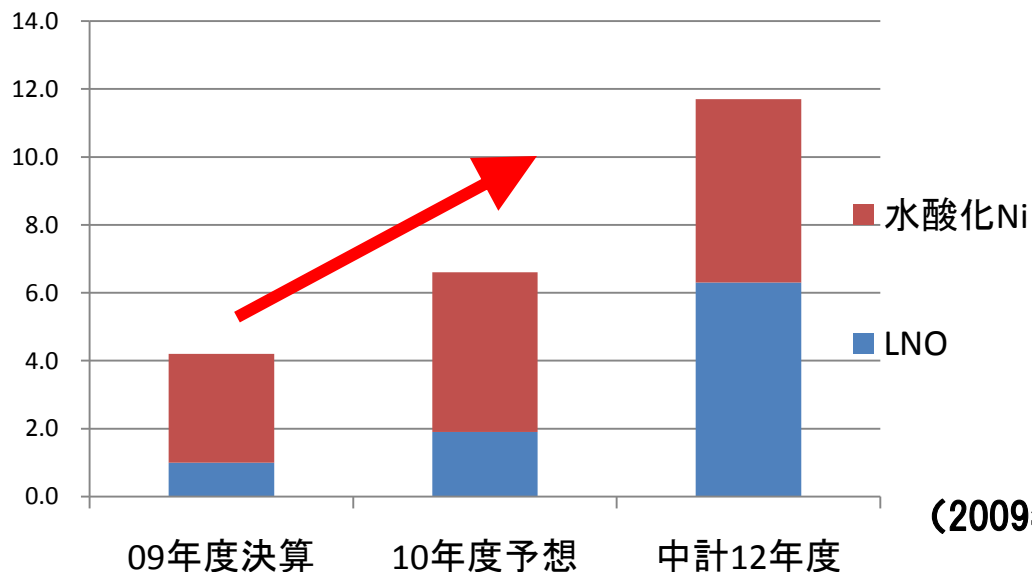
Plant Site

- ◆投資額 1.3BUS\$
- ◆SMMは権益Majorityを確保
NAC社の出資を受入予定
- ◆操業予定期間 30年
- ◆スケジュール
2010年3月 建設工事開始
2013年 完工/ 商業生産開始

4) 材料事業 環境・エネルギー分野

①電池事業～大幅な伸びを計画

正極材販売量(Ni量)



水酸化Ni・LNO

いずれも
着実に販売増加

- 車載用ニッケル水素電池・リチウムイオン電池の正極材:**
トヨタ社向けNo.1販売確保、水酸化Niは世界のトップシェア
- 民生用高容量電池向け正極材:ニッケル酸リチウム(LNO)**
パナソニック向け高容量電池でトップシェア確保

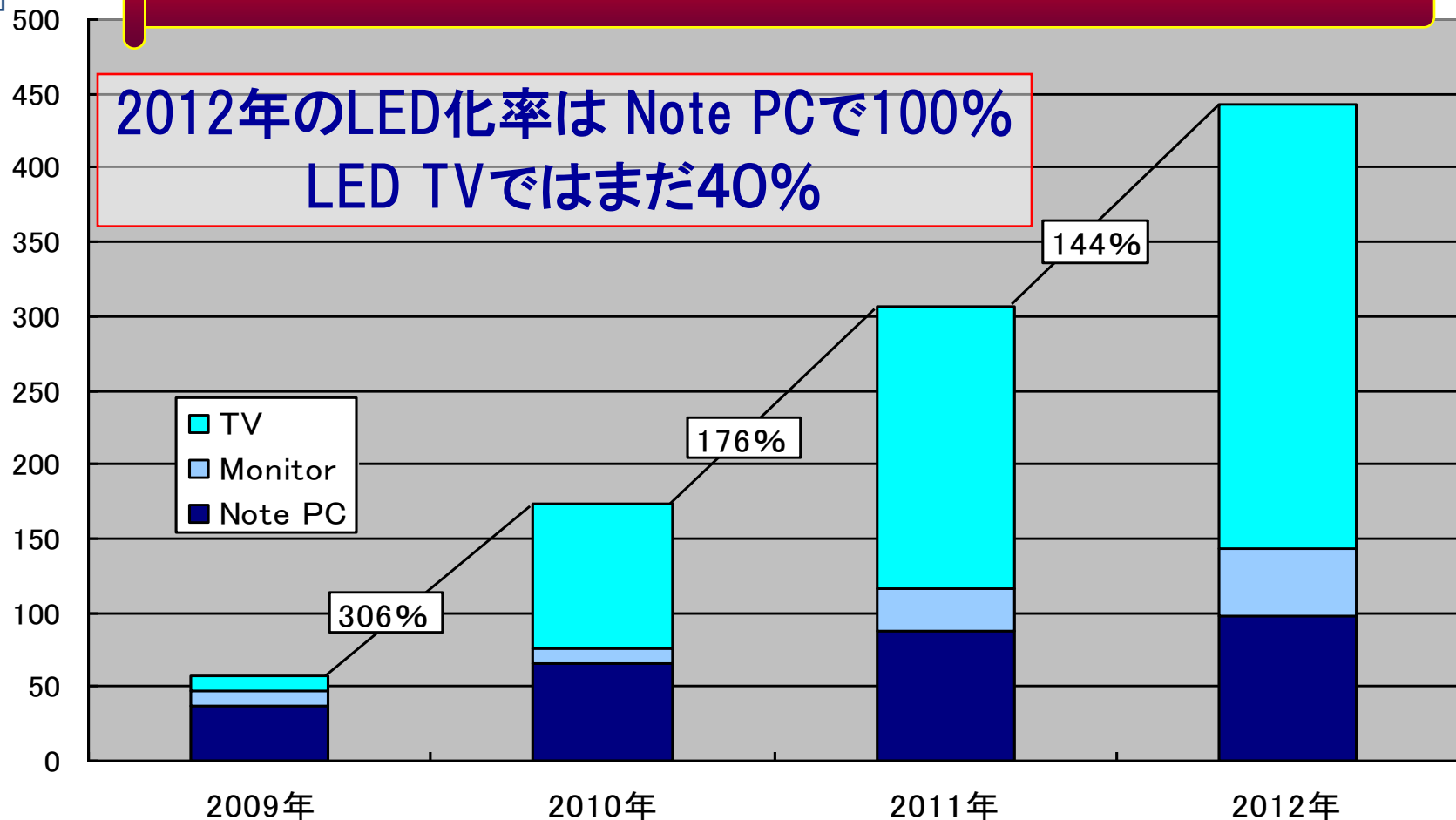
4) 材料事業 環境・エネルギー分野

②LED用サファイア基板 <1>

[億個/年]

LCD Note/Monitor/TV用LEDの需要見通し

2012年のLED化率は Note PCで100%
LED TVではまだ40%



出所: SMM・Displaybank社との情報交換(2010年3月)

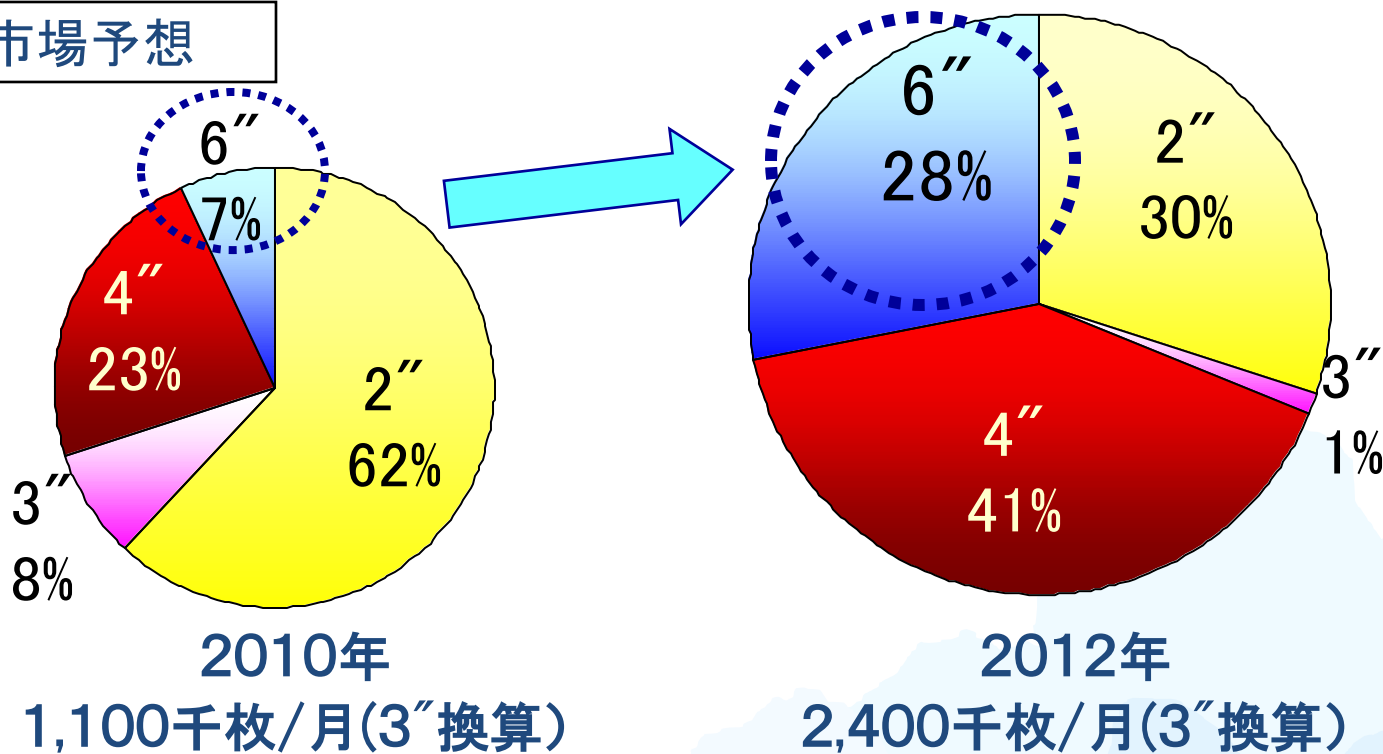
4) 材料事業 環境・エネルギー分野

②LED用サファイア基板 <2>

サファイア基板:

大型結晶育成&加工一貫生産を武器に
大型基板市場においてコスト・シェアNo.1を目指す

世界市場予想



出所: SMM・Displaybank社との情報交換(2010年3月)

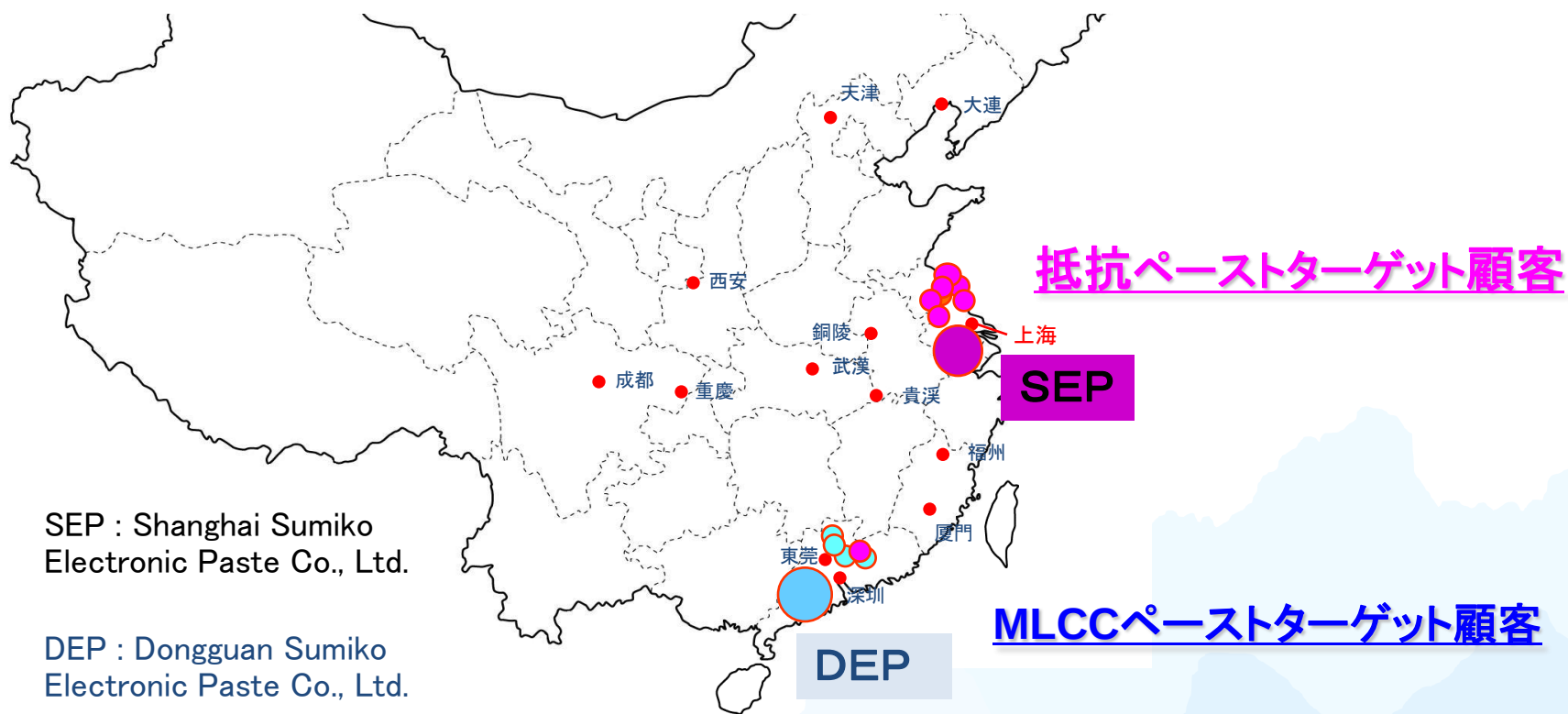
4) 材料事業 基盤強化 ③厚膜材料

事業基盤強化：厚膜材料(ペースト)

(1) サプライチェーンの活用

Ni原料からペーストまで

(2) 上海SEPを拠点として中国の需要を開拓



5) 経営基盤の一層の強化～人材開発

▼人材開発センター 王子館
危険体感・設備技術（09年10月竣工）



▼人材開発センター 星越館
（10年4月竣工）



▲SMM戦略研修所（10年10月竣工予定）

IV. 09年度決算業績ハイライト



チリ: 探鉱

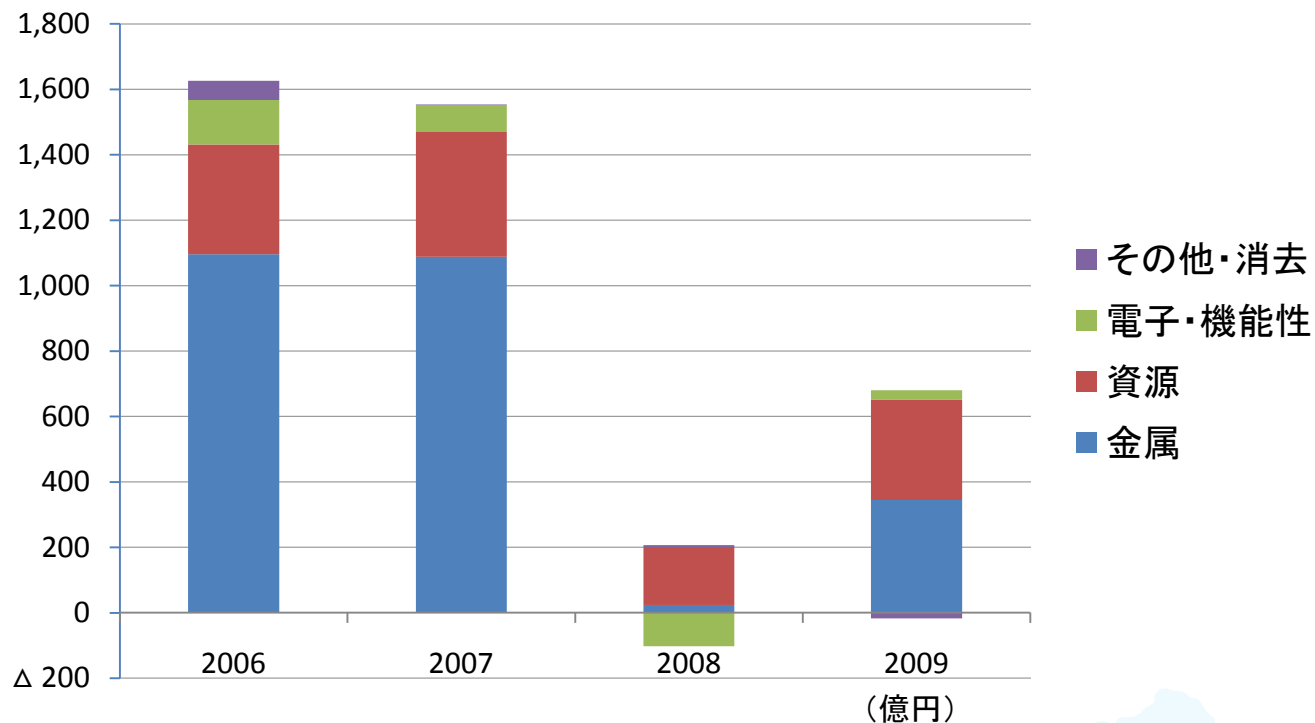
1) 連結業績推移

(億円:JPY100M)

	FY2006	FY2007	FY2008	FY2009	FY2010 予想 Forecast
売上高 Sales	9,668	11,324	7,938	7,258	7,400
営業利益 Operating Profit	1,626	1,554	105	663	790
経常利益 Recurring Profit	2,053	2,179	326	878	960
当期利益 Net Income	1,261	1,378	220	540	670
一株当り配当金額 (JPY) Dividend / Share	27.0	30.0	13.0	20.0	24.0

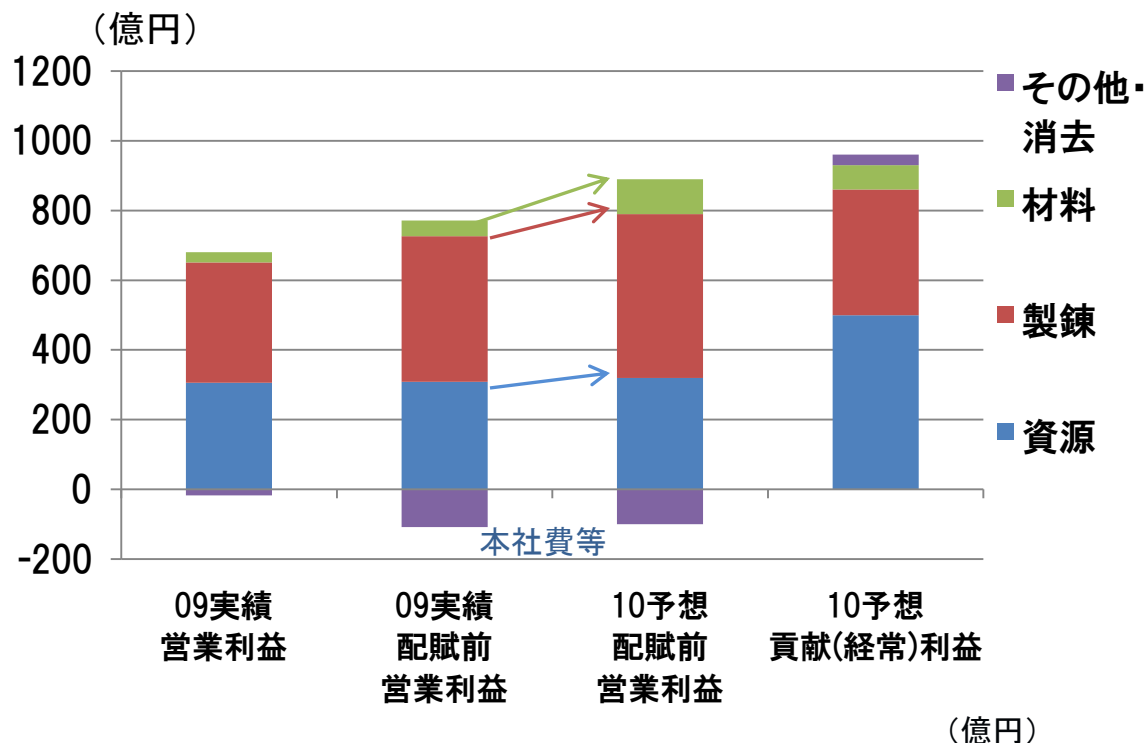
2)－①09年度までのセグメント別営業利益

(億円)



部門	2006	2007	2008	2009
金属	1,096	1,088	24	345
資源	335	381	177	306
電子・機能性	136	82	△ 102	29
その他・消去	59	3	6	△ 17
計	1,626	1,554	105	663

2)-②2010年度からのセグメント利益



	営業利益	配賦前営業利益			貢献(経常)利益
	09実績	09実績	10予想	増減	10予想
資源	306	309	320	11	500
製錬	345	417	470	53	360
材料	29	45	100	55	70
差異調整	-17	-108	-100	8	30
計	663	663	790	127	960

【2010年度から新会計基準適用】

①セグメント名称変更

資源・製錬・材料(内容は従来と同じ)

②セグメント利益の変更

マネージメントアプローチの主旨にそって
社内の業績管理に使用し、セグメント利益を営業外損益まで含めて
広く現す貢献利益＝全社合計で
経常利益をセグメント利益とする

(2009年度まで)

各セグメントの営業利益から
本社費等を負担した後の**営業利益**
(2010年度以降)

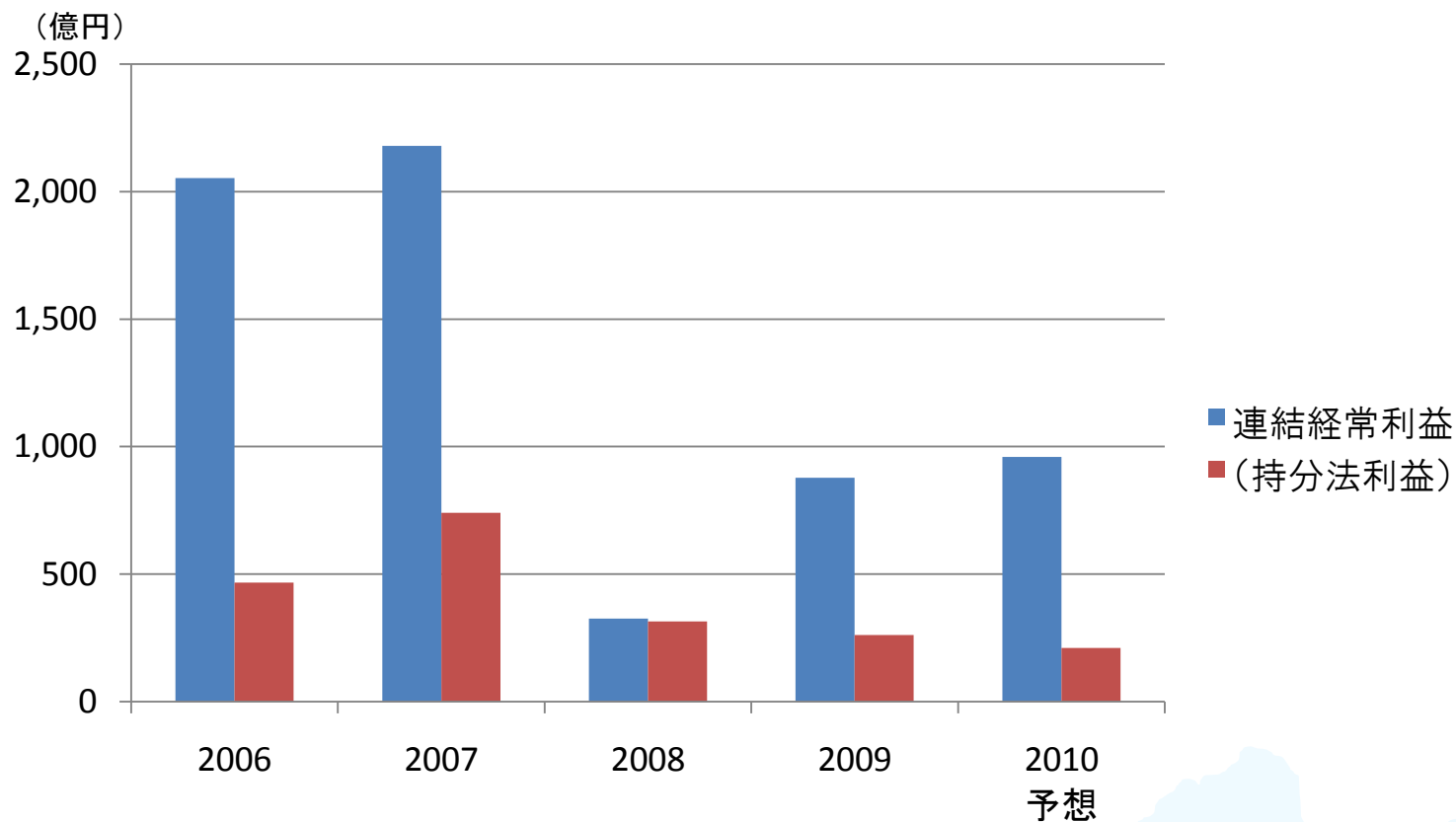
各セグメントの営業利益から
本社費等は負担せず、
資本コスト・持分法投資利益を
含む営業外損益を各セグメント
が取り込んだ**貢献利益**。

全社合計は経常利益となる。

【2009VS2010の比較のため】

09年度までの営業利益から本社費等を負担しない「**配賦前営業利益**」を算出して10年度も同じ内容を算出し比較する

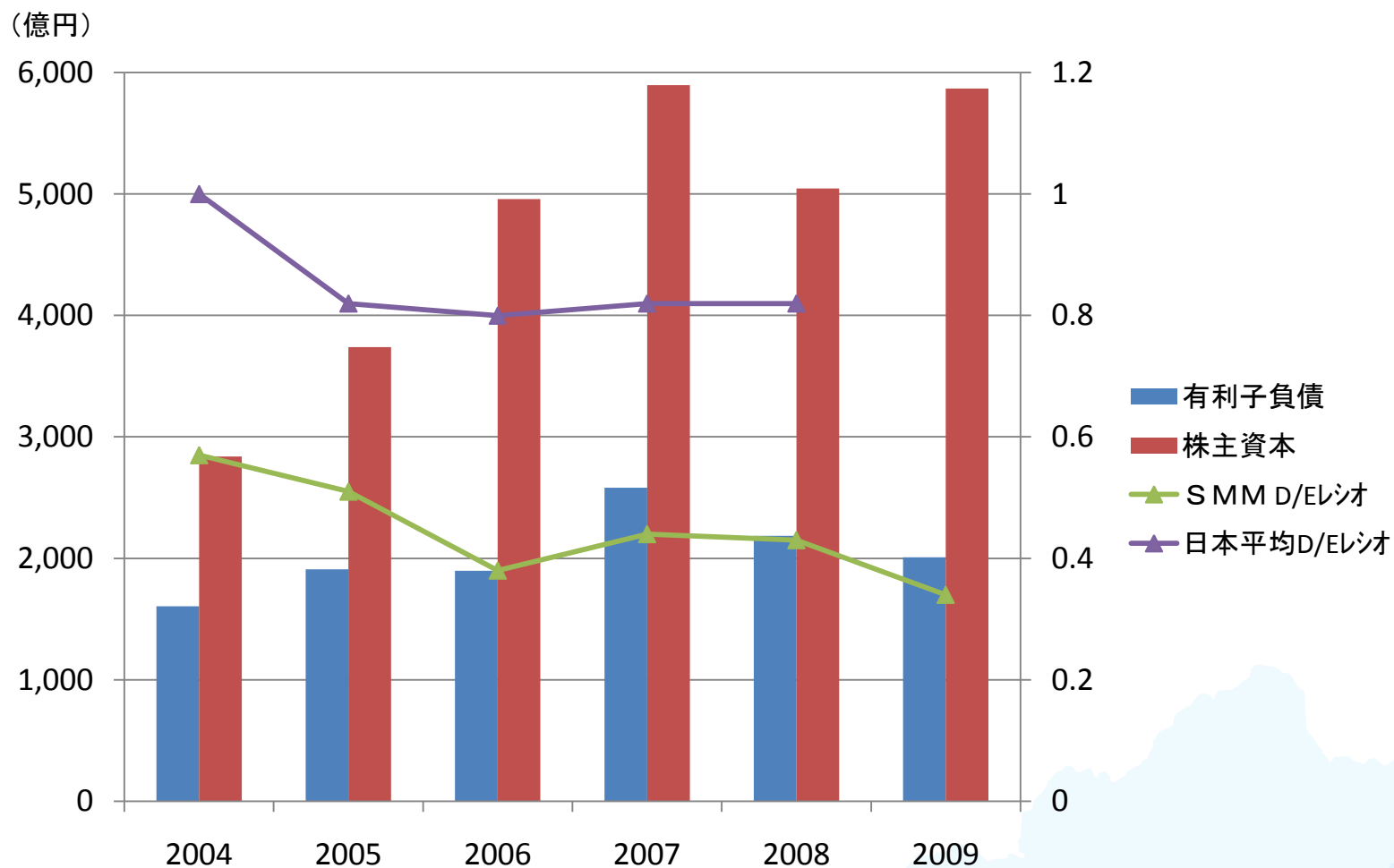
3) 持分法投資利益



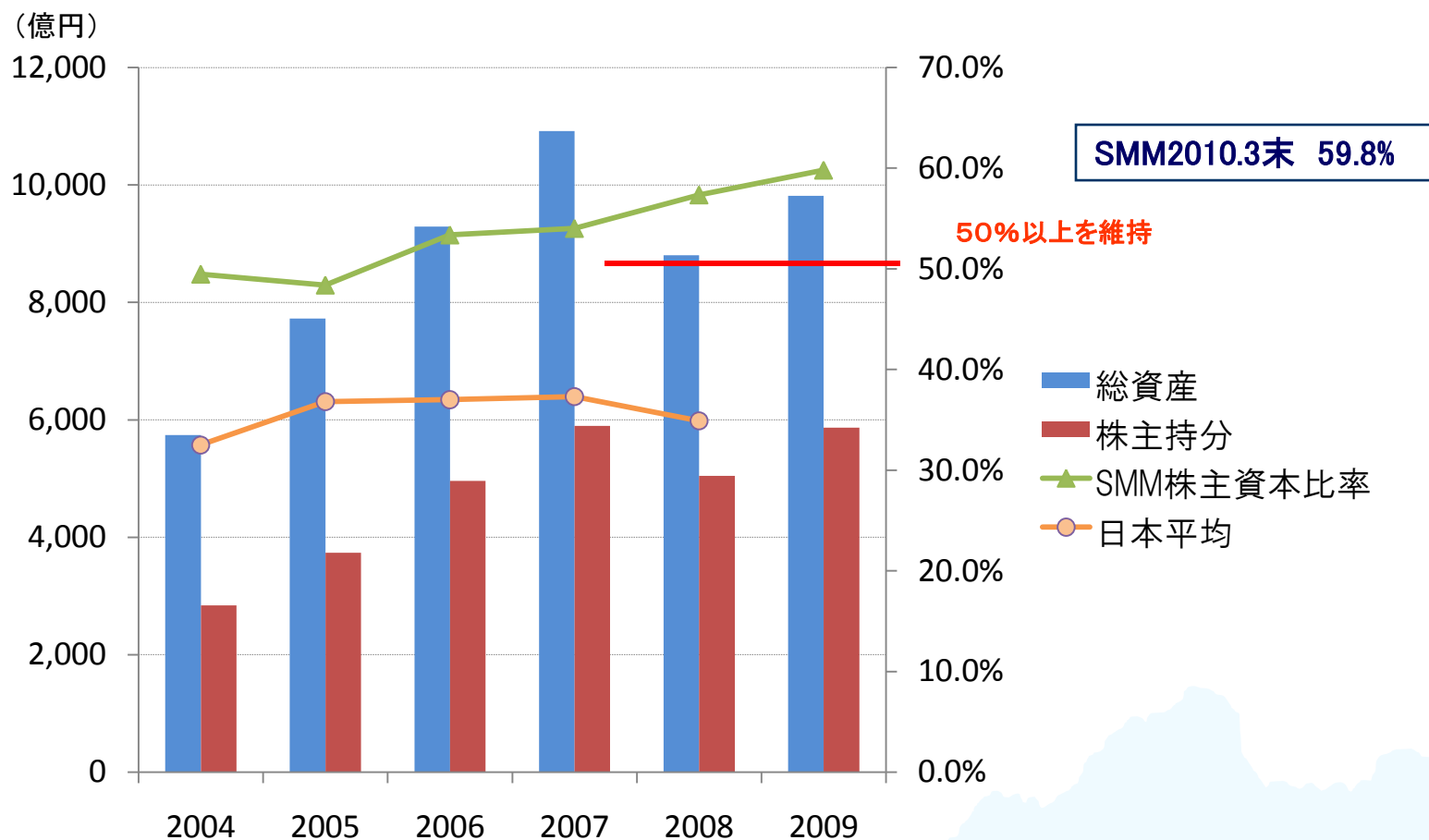
(億円)

	2006	2007	2008	2009	2010予想
連結経常利益	2,053	2,179	326	878	960
(持分法利益)	467	740	315	261	210

4) 健全な財務状況： D／Eレシオ



5) 健全な財務状況: 株主資本比率



6) センシティブティ

億円／年

要素	変動幅	FY10予想
Cu	±100\$/t	5／11
Ni	±10 ¢ /lb	8／10
Au	±10\$/Toz	5／5
¥／\$	±1 ¥/\$	9／9

(注)

1) 営業利益／経常利益 に対する影響額

2) ¥/\$は金属加工収益相当の為替差のみ。

海外関係会社の連結時の業績に対する為替差を含まず。

用語集

資源・金属

1) 金属取引 (LME)

London Metal Exchange(ロンドン金属取引所)。銅、ニッケル、アルミ、鉛、亜鉛など非鉄金属専門の取引所。LMEで決定された金属取引価格は、金属地金の販売価格や原料購入価格の国際的指標として使われる。

(TC/RC)

TC:Treatment Charge (熔錬費)

RC:Refining Charge (精錬費)

金属原料(銅精鉱、ニッケル鉱など)の購入条件の一部として使われる費用。たとえば銅精鉱の購入価格は「一定時点のLME価格—その取引に用いられるTC/RC」(プラス諸条件)という条件が用いられる。

(London Fixing)

金はLMEに上場されておらず、価格は市場参加者の相対取引で決定されている。このため毎日午前/午後の2回、ロンドン貴金属市場協会のメンバーである金融機関が発表するLondon Fixing 価格が一日の基準となる価格として取引の指標となっている。

(重量ポンド (lb))

ヤード・ポンド法の重量単位。銅・ニッケルの計量基準や価格基準として使われるほか、TC/RCの算出基準として用いられる。1ポンドは453.59グラム、1トンは2204.62ポンド。

(トロイオンス (troy ounce))

金・銀など貴金属の重量単位で、1トロイオンスは約31.1グラム。なお「トロイ」はフランス中部・シャンパーニュ地方の都市で、中世ヨーロッパの中心的市场であった。ここで金・銀と商品を交換する単位として使われたトロイオンスという単位が現在も金の取引単位として使われている。

2) 金属製錬

(製錬)

鉱石その他の原料から有用金属を抽出することをいい、主に乾式製錬・湿式製錬に分けられる。当社では東予工場(愛媛県西条市)の上工程(溶錬工程)は乾式製錬、ニッケル工場(愛媛県新居浜市)は全面的に湿式製錬。なお、日本語では「精錬」という漢字もあるが、こちらはすでに高い品位の金属をさらに高めるときに使われることが多い。「Smelting」を製錬、「Refining」を精製とすることもある。

(乾式製錬)

高温の炉で原料鉱を溶かし、溶けた状態で金属を分離する製錬方法。一度に大量の処理が可能である一方、定期的に耐熱設備の補修が必要となる。

(湿式製錬)

金属や不純物が薬液に溶け、化学反応を起こすことなどを利用した製錬方法。安定して継続処理が可能な製錬方法であるが、薬液のコストがかかる。

3) 金属原料

(硫化鉱)

銅・ニッケルなどの金属と硫黄が結合した鉱石のこと。製錬する場合、硫黄が燃えることで溶解させることができるため、乾式製錬を行うことが多い。

(酸化鉱)

金属が酸化した鉱石のこと。硫化鉱と違って熱して溶解する場合はエネルギーコストがかかるため、乾式製錬には不向きとされ湿式製錬の原料とすることが多い。

(銅精鉱)

銅製錬に用いられる原料で、銅が30%程度含まれており、残りはほとんどが硫黄と鉄。おもに硫化鉱から生産される。

現在、海外鉱山で探掘される「鉱石(Ore)」の品位はおおよそ1%前後であり、鉱山で選鉱を行って品位を高めた「精鉱(Concentrate)」の状態にしている。国内の銅製錬所が輸入している主な原料はこの銅精鉱となる。

(ニッケル酸化鉱)

ニッケル製錬には品位の比較的高い硫化鉱が主に利用されていたが、鉱石としては酸化鉱のほうが硫化鉱と比べて多く分布しており、現在の埋蔵量は硫化鉱3:酸化鉱7といわれている。これまでは製錬する際のコストや技術の問題がありあまり利用されていなかったが、当社はHPAL技術により低品位の酸化鉱からのニッケル製錬に成功した。

(MS)

ニッケル・コバルト混合硫化物(Mixed Sulfideの略)。CBNCで生産する、ニッケル品位約55 ~ 56%の間原料。当社電気ニッケルの原料となる。

(マット)

金属の硫化物のことを意味する。ニッケル工場では、PTインコ社からニッケルマット(品位77 ~ 78%程度)を原料として購入して電気ニッケルを生産している。

(自山鉱比率)

自社の製錬原料のうち、出資鉱山に保有する権益により確保される原料の割合。一般的に、鉱山では出資比率に応じて原料鉱を引き取る権益を有する。ただし、セロ・ベルデ鉱山からの原料については、当社は2006年の稼働から当初10年間、出資比率(21%)より多くの買取権益(50%)を有している。

用語集

4) ニッケル生産プロセス

(CBNC)

当社子会社である、コーラルベイ・ニッケル・コーポレーション(フィリピン)の略。HPAL法でニッケル・コバルト混合硫化物(MS)を製造し、当社ニッケル工場(愛媛県新居浜市)に輸出している。

(HPAL)

High Pressure Acid Leach(高圧硫酸浸出)の略。

これまで回収が難しいとされていた、酸化鉱からニッケルを回収する技術。当社が世界に先駆け商業ベースでの実用化を行った。酸化鉱を高圧高圧状態の硫酸と安定的に反応させることにより、高品位のニッケル原料を生産している。

(MCLE)

Matte Chlorine Leach Electrowinning (マット塩素浸出電解採取)の略。当社ニッケル工場で採用されている製造プロセス。マットおよびMSを高圧化で塩素に溶かし、電解法にて高純度ニッケルを生産する。他の製法と比べてコスト競争力があるが、操業技術は難しく、類似した技術で商業化している生産者は当社以外には2社しかない。

5) 金属の主な用途

(銅の主な用途)

電線、銅管などに加工される。電力ケーブルのほか、民生分野では自動車や住宅関連の配線、エアコンなどに使われている。

(電気ニッケルの主な用途)

品位は99.99%以上。特殊鋼や電子材料、めっきなどに使われる。日本国内で電気ニッケルを生産しているのは当社ニッケル工場のみ。

(フェロニッケルの主な用途)

フェロニッケルはニッケル品位20%程度のニッケル・鉄の合金。ニッケル系ステンレス(ニッケル10%前後含む)が主用途。当社グループでは日向製錬所(宮崎県日向市)で生産している。

(金の主な用途)

世界的には投資・宝飾用の需要が多い。日本国内の産業用としてはやわらかく、伸びやすい特性をいかし、電子製品向けとしても多く使用されている。当社が生産した金も一部はグループ会社がボンディングワイヤーに加工し、販売している。

電子・機能性材料

(2層めっき基板)

原料となるポリイミドフィルムの上に、銅をめっきした基板材料。COFの材料として用いられる。当社は大型液晶ディスプレイ向けでは全世界で70%以上のシェアを有している。

(COF)

Chip on film。液晶駆動用ICに用いられる実装材料で、液晶パネルとICを接合する。

(L/F)

リードフレーム(Leadframe)。半導体チップとプリント配線板を結ぶ動きをする実装材料。ニッケルや銅を主成分とした合金が薄板状で用いられる。

(ボンディングワイヤー)

数十ミクロン単位の細さの金線。半導体チップの電極とリードフレームなどを結ぶ導電線として使われる。

(二次電池)

充電して再利用できる電池をいう。当社の電池材料は、車載用としてハイブリッド自動車、民生用としてノートパソコンの電源となる、ニッケル水素電池やリチウムイオン二次電池の正極材として使用されている。

ご注意

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因の影響を受けます。

したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

住友金属鉱山株式会社